



BPW INTERNATIONAL
INTERNATIONAL FEDERATION OF
BUSINESS AND PROFESSIONAL WOMAN



報告書

BPW 東アジア地域会議 2019

&

第2回 ヤングBPW アジア太平洋シンポジウム

SDGsの実現に向けて

-目標5 “ジェンダー平等”はSDGs達成の要-

2019年11月30日～12月2日

新宿・京王プラザホテル & NWECC(国立女性教育会館)

主催:認定NPO法人日本BPW連合会

後援:内閣府男女共同参画局 外務省 文部科学省



目次

1. BPW 東アジア地域会議 2019 プログラム	1
2. はじめに	2
3. 歓迎挨拶	3
4. オープニング・セレモニ	5
5. 基調講演	6
6. 東アジア各国および地域の BPW 活動報告	9
7. “BPW Power to Make a Difference Awards” 紹介	11
8. ワークショップ I “SDGs ゴール5”	12
9. ワークショップ II “SDGs ゴール4”	15
10. ワークショップ III “SDGs ゴール 17:BPW アジア・パシフィックの連携と未来”	18
11. IFBPW 会長報告	21
12. ディナーパーティ	22
13. ラウンジトーク	25
14. クロージング・ランチ & セレモニ	26
15. 文化体験	26
16. オプショナルツアー:小江戸川越散策&伝統工芸紙漉き&そば打ち体験	28
17. 第2回 ヤング BPW アジア太平洋シンポジウム	30
18. 参加者の声	34
19. 実行委員会および関係者報告	42
20. 総括	45

BPW 東アジア地域会議 2019 プログラム

11月30日 (土)	15:30	プレジデント・ミーティング(婦選会館/日本 BPW 連合会事務局)
	18:30	オープニング・セレモニ
	19:25	ヤングスピーチコンテスト・関東山梨ブロック予選
	20:00	基調講演「日本が SDGsを実現するために要となる女性のエンパワメント」 田瀬和夫 (SDG パートナーズ代表取締役 CEO)
12月1日 (日)	11:45	NWEC 到着-NWEC 理事長の歓迎挨拶および NWEC 紹介
	13:30	歓迎挨拶
	13:50	東アジア各国および地域の BPW 活動報告…香港、日本、韓国、台湾
	14:50	IFBPW“Power to Make a Difference Awards”
	15:15	ワークショップ I SDGs Goal 5 講演『ジェンダーの中立性』紙屋雅子(学習院大学教授)
	17:00	チェックイン
	18:00	ディナーパーティ
	20:00	ラウンジトーク
2日 (月)	9:00	ワークショップ II SDGs Goal 4:質の高い教育を 皆に
	10:45	ワークショップ III SDGs Goal 17:BPW アジア・パシフィックの連携と未来
	12:00	クロージング・ランチ
	14:00	日本文化体験:茶道、書道、琴、折り紙
	18:00	ジョイフル・ディナー・パーティ
3日 (火)	9:00~	オプションツアー(カルチャー・スタディツアー)
	16:00	小江戸川越散策&伝統工芸和紙漉き、そば打ち体験

はじめに

元始、女性は太陽だった（平塚らいてう）

平松昌子 認定NPO法人日本BPW連合会 理事長



BPW International 東アジア地域会議のホスト連合会として、ここに皆様をお迎えできたことを心から嬉しく思います。そして、皆様のご協力で、この会合が、SDGs の達成に向けて一歩でも前に進む機会になればと願います。

この会議のテーマは、「SDGs の実現に向けて—その第 5 項はジェンダー平等へのカギ」となっており、会議の目的は、地域や環境の違いを超えて、『女性の力を強め、ジェンダー平等を実現するため』の具体的方策を見つけ出すことです。

女性のエンパワーメントとは、女性があらゆる意味で力をつけることですが、多くのデータは、女性が地球の平和と安全のために役割を果たすこと願っているにもかかわらず、現状はそれを妨げる壁やしきたりが多く、且つ、その障壁は地域や環境で異なることを示しています。

例えば、台湾も香港も、今、トップは女性です。でも日本では衆議院での女性議員比率は 10.2%です。首相も男性だし、閣僚も女性は二人しかいません。これではまずいと昨年、日本の女性たちは、議員を動かし、『候補者の男女均等を目指す法律』の成立にこぎつけました。ここで日本の女性運動の先駆者をご紹介します。

彼女の名前は **平塚らいてう**。およそ 100 年前、日本の憲法がまだ女性の人権を認めていない時代に生き、雑誌「青鞥」を創刊し、その冒頭に次の言葉を掲げました。

『元始、女性は太陽だった』 “In the beginning, woman was the sun”

会議に先立って、一人の日本女性の言葉をもう一度思い起こしておきたいのです。

国連・CSW では、来年、北京会議から 25 年ということで、北京行動綱領がどこまで達成できたかの検証が行われることになっています。この会議での合意がCSW64でも、BPW東アジアメンバーの合意として発言できればよいと考えます。



平塚らいてう

歓迎のご挨拶

ヒュン・パーク

(カタリーナ)

国際 BPW 東アジア
サブリージョナル コーディネータ



親愛なる IFBPW と東アジアの皆様へ

2019 年度東アジア地域会議（EASRC）と第 2 回東アジア太平洋ヤングシンポジウムにて皆様を歓迎できますことを大変光栄に思います。

今年の会議のテーマは、東アジア地域の女性たちのエンパワメントを高めるために 3 つの共通の目標を実行に移すことです。

2018 年の BPW アジア・太平洋地域会議に於いて東アジア地域からの参加者は、SDGs の 3 つの目標（#4、#5、#17）を共通の行動目標として選定し、それらの実現のために共に行動することを決めました。

今回の会議では、SDGs の専門家をお呼びして、ノウハウを学び、ワークショップを通して SDGs の実現のために私たちが何をすることが必要であるかを話し合います。

この機会が、東アジア地域において、お互いに協力し合い、男女共同参画と女性のエンパワメントのために意見を交換し、効果的な方法を見出す最初の年になることを確信しております。

EASRC と第 2 回東アジア太平洋・ヤング BPW シンポジウムは、東アジア地域において、IFBPW の役員や多くのアジア太平洋の会員が参加する最大のイベントであります。

様々な日本文化を体験し、東アジアの会員同士が親交を深め、日本での素晴らしい思い出をお作りになってください。

日本で皆様を歓迎できますことを大変楽しみにしております。

心からの思いを込めて

アマニ・アスフォー

国際 BPW 会長 2017-2020



親愛なる BPW 会員の皆様

大きな喜びをもって、日本で開催される BPW 東アジア地域会議へ参加される皆様へご挨拶を申し上げます。この素晴らしい会議の運営に御尽力された BPW 日本連合会の平松昌子理事長、布柴靖枝氏、そして実行委員の皆様へ感謝申し上げるとともに、カタリーナ・ヒュン・パーク東アジア・サブ地域コーディネータの連携と貢献にお礼を申し上げます。

ヤング BPW 会員の皆様、第 2 回ヤングシンポジウムへようこそいらっしゃいました。林乙羽日本 BPW 連合会前ヤング委員長、ニリーマ・ベスネット国際ヤング BPW 委員長、ヴィヴィエン・ジョンソンアジア太平洋ヤング BPW 委員長、そしてこの興味深いプログラムとアクティビティを準備した実行委員の皆様へ感謝の意を表したいと思います。

この 3 年間のテーマは『持続可能な開発目標を実現化するために女性をエンパワーする』ことです。17 の SDGs を基に、具体的には「平等な賃金」「女性の役職への就任」「意思決定の場での女性の存在」「女性の起業」「STEM（理系科目）教育」などがあげられます。そのためには国際 BPW のすべてのメンバーがこれらの社会問題に貢献し、女性たちの日常生活へインパクトを与えているかということが重要になります。

BPW 創立者であるレナ・マディソン・フィリップ氏が 1930 年にこの会を始めた時、世界中のすべての女性たちが平和構築のために協力するというビジョンを持っていました。国際 BPW は現在 100 を超える国と地域に存在する組織に成長しました。私たちの豊かさが私たちの多様性であり、私たちの宝は国境を超えた世界中の連携です。BPW の目標と女性のエンパワメントと地域の経済成長に向かって協力しあい、貢献しましょう。この 3 年間、この組織のリーダーシップをとることを大変光栄に思います。すべての所属団体の、この目的達成のための方策的計画と努力への貢献を楽しみにしています。そして何よりもお互いに強め合い、私たち自身がゲームチェンジャーになりうることを信じましょう。来年 2020 年は国際 BPW の 90 周年を祝います。それはとてもハッピーな年であり、2020 年のコンGRESは 8 月 21 日から 25 日の間、オーランドで開催されます。

会議のご成功を心より願っております。

ご挨拶

ナルディ・ キングシリ

国際 BPW アジアパシフィック
リージョナル コーディネータ
(2019-2021)



BPW の皆様へ

BPW 東アジア地域会議 2019 in Japan へようこそ！
BPW の 3 年毎のテーマは『Empowering Women to realize Sustainability Goals（持続可能な目標を実現するために女性をエンパワーする）』です。この会議では、SDGs の目標 5 であるジェンダー平等が強調され、選ばれました。意見の交換、経験の共有、方策の発展、友情の構築、共同プロジェクト、そして文化交流、そして、もっとも大事なビジネスとプロフェッションのネットワーク作りのための興味深いプログラム、ユニークな会場、そして質の高い講師を揃えています。

平松昌子理事長と布柴靖枝氏を始めとした日本 BPW 連合会チームの皆様の素晴らしい会議運営と、東アジア・サブ地域コーディネータのカテリーナ・ヒュン・パーク氏の連携と貢献に感謝申し上げます。

そして第 2 回アジア太平洋ヤング BPW シンポジウムへ、ヤング会員の皆様を心から歓迎いたします。林乙羽日本 BPW 連合会元ヤング委員長、ニーリマ・ベスネット IFBPW ヤング委員長、ヴィヴィエン・ジョンソン アジア太平洋ヤング委員長と、この興味深いプログラムとアクティビティを準備したチームの皆様へ感謝申し上げます。

この会議が参加者全員にとって実り多きものとなることを信じております。BPW 東アジア地域会議 2019 in Japan と第 2 回 BPW ヤングシンポジウムの成功を祈りつつ心を込めて

ご挨拶

松田 友紀子

外務省 女性参画推進室長



東アジア地域会議 2019 in Japan の開催に心より喜び申し上げますと共に、関係者の皆様のご尽力に敬意を表します。

誰一人取り残さない社会を構築していくためには、ジェンダー平等の達成が不可欠です。

日本は本年、次世代・女性のエンパワーメントを柱の一つとして掲げた拡大版 SDGs アクションプラン 2019 を策定しました。3 月に実施された国際女性会議 WAW! では、2020 年までの 3 年間で、少なくとも 400 万人の途上国の女性たちに質の高い教育、人材育成の機会を提供し、安心・安全な教育環境の整備を行うことを表明し、実行しています。また、6 月の G20 大阪サミットでは、労働力参加における男女間の格差是正、質の高い初等・中等教育等へのアクセス改善、そして女性のビジネスリーダーや起業家支援の重要性を強調し、本取組におけるイニシアティブを発揮しました。ジェンダー平等の推進は SDGs の他のゴールにもよい影響を与え、好循環を生み出します。SDGs 達成に向けて、国内外におけるジェンダー平等と女性・女児のエンパワーメントを共に推進していきましょう。盛会をお祈り申し上げます

オープニング・セレモニ

開会の挨拶

平松昌子・日本 BPW 連合会理事長

BPW 東アジア地域会議に日本国内や東アジア地域の各地（韓国、香港、台湾、モンゴル）はもちろん、それ以外の地域からの多くの BPW のシスターたち、そして、アマニ会長をはじめとする IFBPW の役員の方々が日本に来て下さったことに感謝します。国内から70人以上、海外から80人以上と多くの方が参加されています。

日本 BPW 連合会は、国際組織 IFBPW のテーマでもある「SDGsを実現するためにどうすべきか」を踏まえ国連において2015年に全会一致で承認されたという重要なアジェンダであるSDGsをテーマに選びの3日間の会議で話し合う事にしました。今日は、日本ではその第一人者である田瀬和夫さんに講演をして頂きます。

会議スタートにあたって、一人の日本女性の「元始 女性は太陽であった」という“平塚らいてう”の言葉を紹介したいと思います。昨今、日本の女性は、決して国際的にいい位置に立っていませんが、この言葉の意味することを思い起こしてほしいのです。「日本の最初は、女性だった。」「女性が太陽であって、女性が日本を照らして、日本が始まった」という意味です。この言葉は、今でも日本の女性の指針となっています。



IFBPW 会長の挨拶

アマニ・アスフォー・IFBPW 会長

私の親愛なる BPW International のみなさま、東アジア地域のみなさま、BPW 日本のみなさま、1985年、まだ19歳の大学生の時に初めて日本にきました。それ以来、日本のことは忘れられません。BPW 創立89年目の今、東京に来て、このような会合に参加できることを、とても嬉しく思います。今、BPW はSDGsの17の目標に向けて、各国や地域で多くの活動をしています。目標1の貧困克服は、女兒の教育や女性の経済活動参加につながります。もちろん、目標5のジェンダー平等が最も重要な課題であることは間違いありませんが、ジェンダー平等は、単なる女性の権利だけの問題ではありません。目標5の達成には、1~17のあらゆる分野での改善が必要です。2日前、私はルワンダにいました。ルワンダは、国会議員の65%が女性で世界のトップレベルです。世界にはさまざまな事情がありますが、女性たちが手を取りあって、挑戦しなくてはなりません。そして、BPW はそれを実行しています。来年、BPW International は90年目で、2020年コンGRESSをオーランドで開催しますが、多くのみなさんが集まって、SDGsの実現を目指しましょう。BPW の声を届けて、世界を変えましょう。



最後は、いつも私がみなさまに贈ることばで終わります。“If you want to go fast, go alone! If you want to go further, go together!”（早く行きたいなら、一人で行きなさい。でも、遠くまで行きたいなら、手を合わせてみなで行こう。）

乾杯のごあいさつ

赤松良子

今日は、南半球からもご来場になっているということですが、南半球は今、春だと思えます。日本は今、秋のおわりで、明日から冬ですが、まだ、東京は紅葉がきれいです。安全な都市ですので、ぜひ、日本の季節を味わって下さい。みなさまのご健康と、SDGsの実現、特に、ジェンダー平等の達成を祈念して乾杯をしたいと思います。

赤松良子さんプロフィール：男女雇用機会均等法成立の立役者

労働省婦人局局長、ウルグアイ大使、文部大臣等を歴任され、現在は財団法人日本ユニセフ協会会長



基調講演 「日本が SDGsを実現するために要となる女性のエンパワメント」

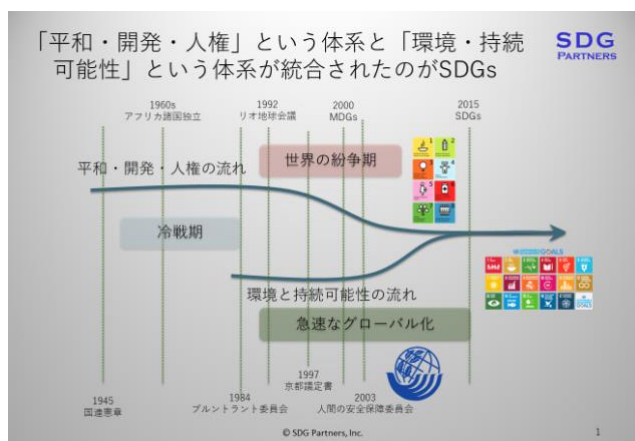
講師 田瀬和夫 SDG パートナース CEO、国連フォーラム共同代表

講師プロフィール 1967 年福岡県福岡市生まれ。1991 年東京大学工学部原子力工学科卒業。1992 年外務省に入省し、国連政策課、人権難民課、アフリカ二課、国連行政課を歴任し、2001 年より 2 年間、緒方貞子氏の補佐官として「人間の安全保障委員会」事務局勤務。2005 年国際連合事務局・人間の安全保障ユニット課長、2010 年国連広報センター長（パキスタン）、2014 年に国連退職。同年、デロイトトーマツコンサルティング執行役員に就任し、日本経済と国際機関・国際社会の「共創」をテーマに企業のサステナビリティ強化支援を手がけた。2017 年 9 月に独立し、新会社 SDG パートナースを設立して、現在同社代表取締役 CEO。また、7,500 人以上のメンバーを擁する「国連フォーラム」の共同代表を 2004 年より務める。



講演内容

1945 年国際連合の設立に提唱された国連憲章を原点に、その後の冷戦期終結後、世界各地の紛争や急速なグローバル化という二つの動きの中で、2000 年には MDGs を掲げ、一部の達成を経て、2015 年に「平和・開発・人権」という体系と「環境・持続可能性」という体系が統合されたのが SDGs である。(スライド1)



この流れのカギとなるコンセプトは、2005 年コフィ・アナン事務総長報告にある。「より大きな自由を求めて (In Larger Freedom) : 全ての人々のための安全、開発、及び人権に向けて」の構成には、1) 欠乏からの自由(開発) 2) 恐怖からの自由(平和と安全) 3) 尊厳をもって生きる自由(法の支配と弱者の保護) 4) 国連強化(国連の機構改革)の達成をめざして、国連の活動は統合していくべきである。」と提言している。

SDGsは、「2030 年、15 年後の世界に、次の世代の子どもたちにどういふ社会を残したいのか」という壮大な文章である。United Nations/国際連合は、もとは「枢軸国」に対する連合軍、戦争に勝った側の United Nations であり、70 年前の国連憲章はパーシャル合意だったのが、この SDGs は 193 か国 75 億人が、15

年後の世界のことをコンセンサスベースで全会一致で「こういう社会を残したい」と合意できたとは、奇跡に近い。(スライド2)



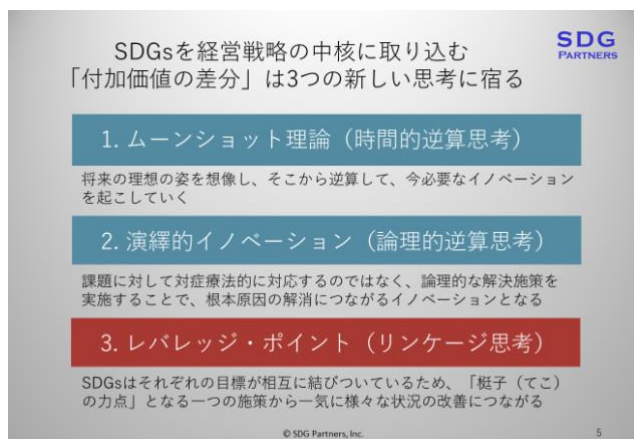
そしてこの文章は政府だけでなくビジネスにおいても大きく意味を持つ。つまり、SDGsによって生じる企業のビジネス上の機会、コンプライアンスへの圧力、ビジネスの持続可能性を支える土台づくり、という3つの理由で重要である。(スライド3)



いまや、ビジネスの中でも SDGsを考えずに経営戦略を立てる事はできない時代になってきた。今、SDGs に対する日本の状況は、上場企業 3663 社ある中で、ほとんどの会社が SDGsと自分の会社をマッピングしている状況で、マッピングまではできている。例えば、「工場で使っている水を節約しているので、SDGsでは NO6!」あるいは、「企業において女性管理職が少ないので女性管理職を増やそうという目標を立てたので、NO5 やってます!」と。このようなマッピングをしていると、そこで思考が止まってしまう。その先の経営戦略とか、未来を見据えた組織運営の中に、どのように SDGsを本格的に取り込んでいくかということに関してほとんど日本の経営者はアイデアを持っていない状態で、マッピングだけなら、SDGsは要らないのではないかとさえ考えられる。ところが SDGsには、経営者に対して付加価値を与えるだけのバリューがある。(スライド4)

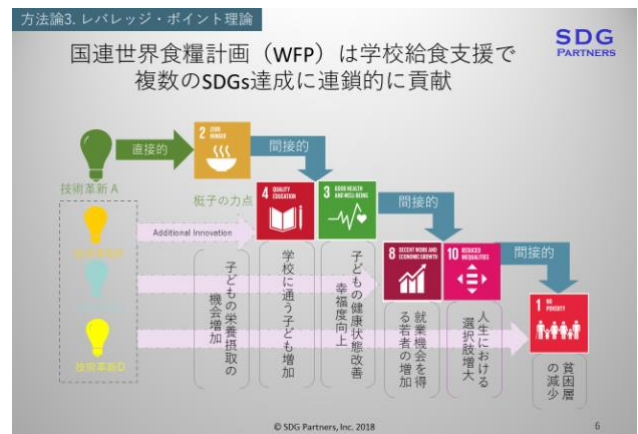


また、SDGsを経営戦略に取り込む「付加価値の差分」には、①時間的なバックキャスト(時間的逆算思考) ②論理的逆算思考(イノベーションやデザイン思考) ③リンゲージ思考 という 3 つの新しい思考が必要となる。この 3 つのバリューはただ 17 のゴールだけ見ても絶対に出てこない。特に、最後のリンゲージ思考とは、“SDGs は、それぞれの目標が相互に結びついているため、「梔子の力点」(レバレッジ・ポイント)となる一つの施策から一気に様々な状況の改善につな



がる”という、重要な観点である。(スライド5)

具体的な例として、国連世界食糧計画(WFP)を見る。WFPはスクールプログラムという学校給食を貧困な農村に対して行っている。非常に貧しい村で給食を出すとは何が起きるか。⇒まず子供たちが物理的に学校に行く。(勉強をしにくるのではなく、ご飯を食べに来る。)が、それで構わない。⇒ご飯を食べ、おなか一杯になる。⇒栄養が改善され、元気になる。⇒元気になったら読み書き算盤を勉強する。⇒勉強すると次の学校に行ける。⇒次の学校に行くとちょっといい仕事に就くことができる。⇒ちょっと収入が上がる。⇒そうするとちょっと貧困が減る。でも、それだけではない!…学校給食の材料は、WFP が持ち込むわけではないので、村の農家や漁師から買う。⇒村の農家や漁師の収入がちょっと上がる。⇒ちょっと貧困が減る。かつ、子供たちが学校にいるということはストリートにはいないので、治安が良くなる。このように、WFP だからできる学校給食という 2 番のボタン(飢餓をゼロに)のことを開発学でリバレッジポイントと言い、「てこの力点」レバレッジポイントを押すことでドミノ倒しになっている。SDGsドミノともいえる。このような SDGsの 1 つ 1 つのゴールの連環(リンゲージ)という事について、まだ、ほとんどの人がわかっていない。とくにビジネスがわかっていない。(スライド6)

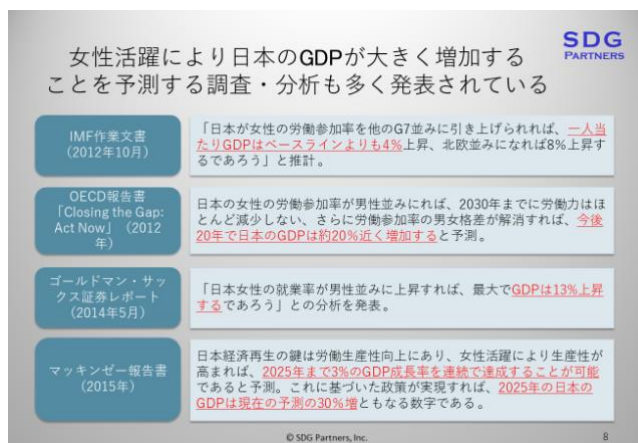


SDGsのゴール5…日本経済再生にも、地方創生を進めるうえでも、これは極めて重要なレバレッジ・ポイントである。そして、今、投資家が一番関心あるのが、女性のエンパワーメントと人権である。ダイバーシティとか、女性のエンパワーメントを語るとき、ビジネスの人たちは競争優位性、経済合理性について語りたがる。とくに男性の経営者は人権についてはどうでもよくて、経済的合理性について納得しないと動かない。権利を主張する場合、それが経済的にも合理性があるということを証明していかなければ、なかなか経済が動かないという現状がある。本当は権利性だけで議論ができればいいのだが、なかなか動かないので両方で攻めるしかない。

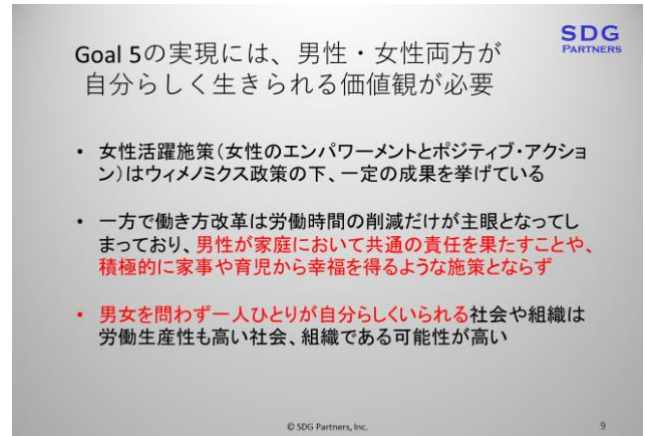
人権から入っても、経済合理性や競争優位性からはいっても、同じだということを経営者に納得させることが課題である。(それは本当に儲かるのか？ 費用はだれが出すのか？等の問いに答えなくてはいけない。)すでに、女性活躍によって、日本の GDP が大きく増加することを予測する調査・分析も多く発表されているのだが…。(スライド7)



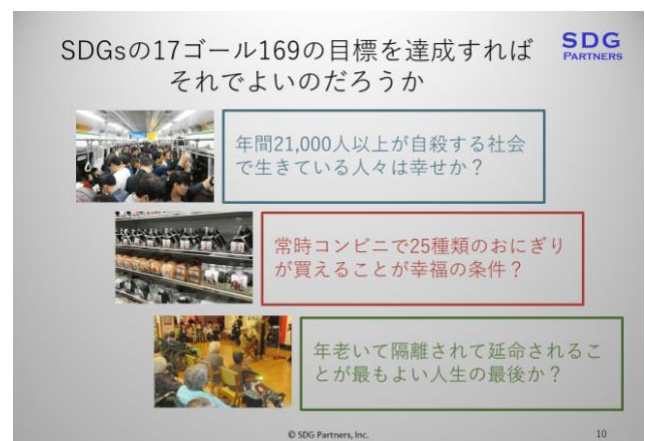
ゴール5の実現には、男性・女性両方が自分らしく生きる価値観が必要である。日本では、女性活躍施策(女性のエンパワメントとポジティブ・アクション)はウィメンミクス政策の下、一定の成果を上げている。一方で、働き方改革は労働時間の削減だけが主眼となっており、男性が家庭において共通の責任を果たすことや、積極的に家事や育児から幸福を得るような施策とはなっていない。男女を問わず一人ひとりが自分らしくいられる社会や組織は、労働生産性も高い社会、組織である可能性が高いのである。(スライド8)



さて、SDGsの 17 ゴール 169 の目標を達成すればそれでよいのだろうか?という疑問が残る。「年間21,000人以上が自殺する社会で生きている人々は幸せか?」「常時コンビニで25種類のおにぎりを買えることが幸福の条件か?」「年老いて隔離されて延命されることが最もよい人生の最後か?」(スライド9)



SDGsという文書は、169 の目標以外にも人類にとって極めて重要なことを述べている。特に前文の第1文には、「このアジェンダは、人間、地球及び繁栄のための行動計画である。これはまた、一層大きな自由 (in larger freedom) における普遍的な平和の強化を追求するものである。」とあり、宣言パラ7:ビジョンには、「我々は、すべての生命が栄え、貧困、飢餓、病気および欠乏から自由な世界、そして恐怖と暴力から自由な世界を思い描く。…それは、身体的、精神的、社会的な幸福(well-being)が約束される世界である。」とある。つまり、すべての人の“Well-being”と”Freedom”がSDGsの一つひとつの実現を越えた大きな目標なのである。(スライド10)



東アジア各国および地域の BPW 活動報告

モデレータ: ヒュン・パク(カテリーナ) 国際 BPW 東アジア・サブリージョナルコーディネーター

東アジア地域の各国および地域の BPW が、組織体制や前回会議(2017 年)以降の活動内容について報告した。

□香港 リサ・フォング(BPW 香港 会長)

2017 年から活動を開始し、国際 BPW に加入した。女性の立場を重視し、人権問題や持続可能な国際社会に対して貢献することをめざしている。特に3つの課題に取り組んでいる。1) 女性問題についての地域社会・自治体へのアドボカシー活動 2) 女性および女児のエンパワメントを地域でリードすること 3) 各会員の専門的能力の推進 である。全会員の 54% がヤング会員で、ヤング会員が役員としても活躍しており、ヤング BPW プロジェクトとして、メンタープログラムを行い、また、ヤング BPW イベントとしては、SDGs#4、#5、#10に焦点をあてたワークショップを開催している。



We are...



...The Hong Kong Association of Business and Professional Women (BPWHK), the local affiliate of BPW International, a global women's NGO established in 1930 in Geneva, Switzerland.

- At BPW Hong Kong, in placing emphasis on the feminine principle, aims to be a positive influence for human rights and global sustainability.
- We define our work and purpose around three key focus areas:
 - Advocacy with local government on women's issues
 - Community initiatives to empower women and girls
 - Professional development of our members



Committee 2019 - 2021



Executive Committee Officers:

 Lisa Fong President	 Kelly Yeung 1st Vice President / Membership	 Olivie Natscha 2nd Vice President / Projects	 Renee Cheung Secretary	 Annie Wong Treasurer	 Elaine Kwan Young BPW Representative	 Sindy Leung Immediate Past President
--	---	---	---	---	---	---

Committee Chairs:

 Lena Wong Programme Chair	 Jocelyn Yeung International Relations Chair	 Linda Lam Public Relations Chair
---	--	--

Taskforce Chairs:

 Judy Tam Advocacy Taskforce Chair	 Kayley Lo Global Skills Taskforce Chair	 Vanessa Yue Mentoring Taskforce Chair	 Samuel Chang Training Taskforce Co-Chair	 Mandy Lok Taskforce Co-Chair
---	---	---	--	--

□日本 平松昌子(日本 BPW 連合会理事長)

1958 年に創立し、翌年に国際 BPW に加盟した。現在の会員数は、国内 16 のクラブに所属する約 300 名である。SDGsについては、特にゴール5とゴール8に着目し、真のジェンダー平等の実現=フィフティフィティ、特に政治や経済での促進に向けて活動している。毎年の事業としては、EPD キャンペーンおよび EPD 全国会議、GGGI セミナ、CSW インターンシップおよび CSW 参加、ヤングスピーチコンテスト、年次全国総会および全国5ブロックでの研究会を実施している。2018 年には、創立 60 周年と認定法人資格取得の記念全国大会を開催した。2018 年 5 月には、政治分野における男女共同参画推進法が成立・施行されたが、その法律の成立に向けて、日本 BPW 連合会も他団体との協働の中で、中心的役割を果たした。



Data of BPW Japan

- Founded in 1958 and joined to BPWI in 1959
- Members about 300
- Clubs 16 (including 2 associates)
- President Masako Hiratsuka (2017~)
- Type of organization: officially registered as authorized NPO
- Member of: " Liaison conference for the Promotion of Gender Equality Collaboration Conference" (by the Cabinet Office)
- Corporate organization: International Women's year Reason Group and others



Special Issue in 2018 : to pass the bill for quota in politics and it was enacted

- The order of IPU has been under 100, (140/191=2018/March)
- We with other organizations have worked for several years to quota in politics and
- We could win on May 16, 2018.



□韓国 ヤン・フィー・リー (BPW 韓国会長)

1968 年創立され、昨年 (2018 年)、創立 50 周年を祝うセレモニ
を行い、50 周年記念誌を発行した。現在、20 のクラブがあり、総会員
数は 450 名。BPW 韓国の主な事業は、1) BPW 金賞: 女性の地位向
上や雇用促進に貢献したリーダーに授与 2) 全国総会開催 (2 日間)
3) メンタリング・プログラム: 2011 年から、韓国国際教育研究所と協働
して、女子留学生在が本国帰国後もリーダーシップを発揮できるようにメ
ンターとしての支援活動 4) EPD 活動 5) SDGs セミナ: 2019 年はメ
ディアにおけるジェンダー平等への戦略がテーマ 6) リーダーシップ・キ
ャンプ: 中高生へ多様な分野の専門家が講義をして職業人であること、人権やジェンダーの意識を高めるのが目
的である。2020 年には、ジェンダー平等実現にむけてのシンポジウムを開催する予定である。



General information, BPW KOREA

- Established in 1968
- 20 clubs (1 club added in October 2018), 450 members
- President: Young Whee Lee (2019.11 - 2021.10)

BPW Korea 50th Anniversary Ceremony

- 50th Anniversary Special Lecture
- Homecoming

Lecturer: Oh Jun (past UN Ambassador to Korea)
Topic: "Sustainable Development Goals: Women's Empowerment & Building Peace"

Invite active members for over 40 years

□台湾 チェン・シュワン・シー (BPW 台湾会長)

2008 年創立され、同年 IFBPW に所属した。初代会長アネット・ルーは、第 10 代台湾副総統で、現在の会長は
6 代目である。BPW 台湾は、強力な女性団体のひとつとして活動を続けており、次の 5 つの課題に焦点をあててい
る。1) ジェンダー平等の推進 2) 女性の交流や協働のプラットフォームの提供 3) 女性たちの国際的な可能性を広
げ、職業的スキルを得るための訓練 4) 仕事の各分野で、才能ある女性の機会獲得 5) 台湾の経済・開発の立場
における、女性たちの認識を高めること。現在、地域内の 9 クラブに 407 名の会員が所属している。2019 年の主
な活動としては、リーダーシップの訓練・教育の研修実施、企業訪問による産業・商業・ビジネスの理解促進、第 3 回
東アジア平和フォーラム開催、社会福祉活動 (弱者である高齢者や孤児を対象とした各種活動)、若い女性への奨
学金授与などである。



Continuing Tasks in SDGs

4 QUALITY EDUCATION

- ✓ BPW Taiwan Scholarship
- ✓ Leadership Workshop
- ✓ Enterprises Visiting
- ✓ Charity Gala
- MORE....

5 GENDER EQUALITY

- ✓ Leadership Workshop
- ✓ Equal Pay Day
- ✓ Global Leader Summit
- ✓ Gender Equality Workshop
- ✓ Enterprises Visiting
- MORE....

17 PARTNERSHIPS FOR THE GOALS

- ✓ Pay Love Forward to Africa program
- ✓ Global Leader Summit
- ✓ Gender Equality Workshop
- ✓ Enterprises Visiting
- ✓ East-Asia Peace Forum
- MORE....



各 BPW の報
告者と
IFBPW 役員

“BPW Power to Make a Difference Awards”

チョンチャノック・ピラバン 元国際 BPW 会長 2005–2008

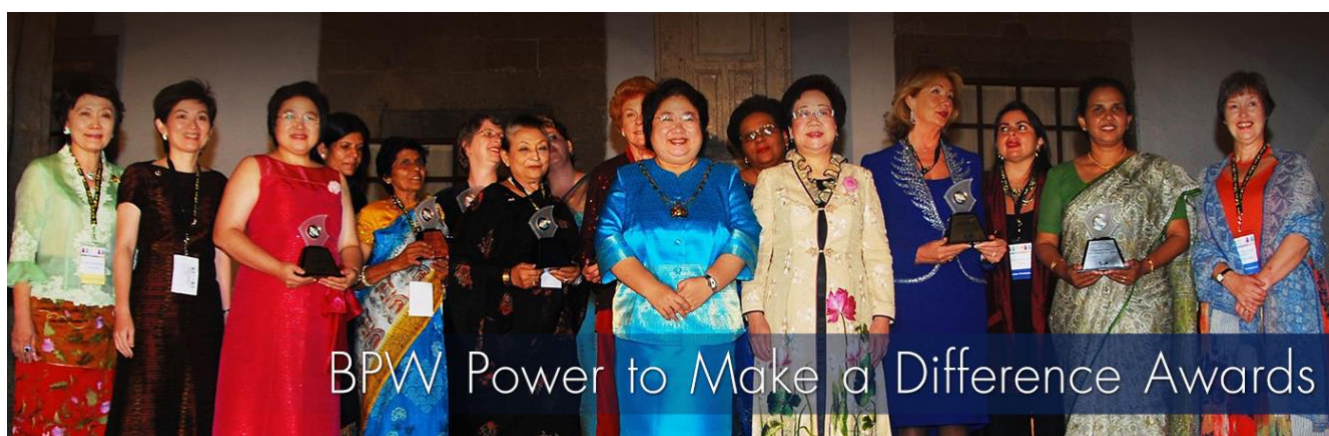
“違いを生み出す BPW のパワー”審査委員長

IFBPW のサイトをスクリーンに映し出しながら、この賞の内容について説明した。この賞は、リーダーシップ、アドボカシー、および行動を通じて BPW に貢献したと認められた BPW 会員個人や BPW 団体に敬意をこめて贈られる。

- ・リーダーシップの3賞は、優秀なビジネスリーダー、優秀なプロフェッショナルリーダーと優秀な若いリーダーで、個人に与える。
- ・アドボカシー賞は、男女平等の支援に成功したトップ3のBPW団体に与える。
- ・行動についての授賞は、女性たちが自分自身を維持するのに役立つプロジェクトを実施しているトップ5のBPW団体に賞が与える。お金を供与する事は認めておらず、技術研修の提供や、アドバイスや時間、機会を供与する事を評価している。例えば、女性の健康と環境の改善も、女性の持続可能性に貢献する行動としている。様々な賞を設定しているので、これを目指して活動してほしい。



参照サイト <https://www.bpw-international.org/index.php/bpwawards/BPW-Power-to-Make-a-Difference-Awards>



ワークショップⅠ “SDG s ゴール5”

司会：澤田順（東京クラブ）

＜ゲストスピーチ＞

「社会構造にジェンダーが組み込まれている？—私たち自身の『無意識なジェンダー認識』を克服するために」

紙谷雅子（学習院大学教授、国際婦人年連絡会世話人）

日本の女性たちは1946年に参政権を得たが、現在も女性の政治家は10%しかいない。今年、女性政治家の増加を促す法律である『候補者の男女均等を目指す法律』が成立したが、今年4月の参院選挙での候補者は28%しか女性ではなかった。これは残念な数である。政治的な仕事というのが女性に向きにくい働き方であることが理由かもしれない。まだ日本では意思決定の場に13%しか女性がいない。それに女性には家庭と仕事のダブルシフトを望まれ、家族の介護の場においても当然の人材だと考えられている。それから、高齢女性の貧困も問題である。年金額が男性と比較すると低い。1976年から、女性は結婚すると退職しなければいけなかった。それは1996年まで続いた。一度最初の仕事から離れると、収入も低くなり、経済的に自立することは難しかった。そしてそれは、離婚率にも関連している。教育を十分に受けていない女性が離婚する場合、養育費をもらえない可能性が高く（実に離婚した女性の半分以上が元夫から養育費をもらっていない）、子どもを育てながらでは、長時間の労働もできない。そのため、一部の女性たちは、離婚することを諦め、結婚を続けることで住居とお金をもらい、社会からの期待を得ている。これらの社会的に罫に嵌った状態の女性たちの将来を考えると、一般常識というものに囚われず、アンコンシャス・バイアスを知り、それを解決することが必要である。

今日、女性は自分の名前で
教育を受け
選挙権を行使し、
財産を所有することができる

けれども、全ての女性が実際に、
その権利を行使している
わけではない。

権利があること
仕組みが整っていることは

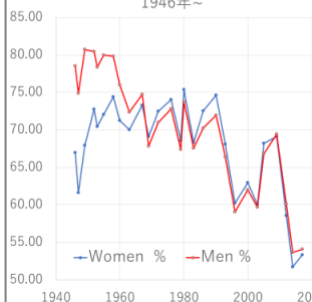
すべての女性が
——大人、少女、子どもたち——
自分たちの選択を誇りを持って実現する
ほんとうの最終的な解決策
というわけではない

なぜ？ どうして？

1. ジェンダー中立的な仕組みが必要
2. その仕組みが、ジェンダー中立な組織であり、運営されることが必要
3. 女性たちは、この目標達成のために、女性たちだけでなく、あらゆる人々と協力する...男性とも協力する
4. そして、自分の中にある、しっかりと刻印された規範、無意識の偏見とも戦う必要が...ある！

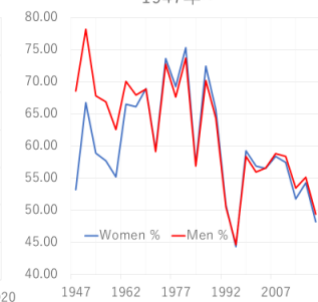
参議院議員選挙の性別投票率 (%)

1946年～



衆議院選挙の性別投票率 (%)

1947年～



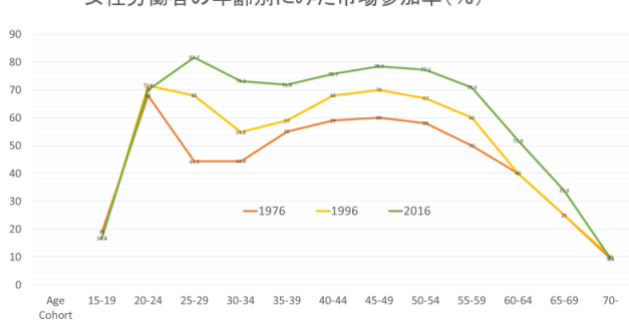
日本では、多くの女性が人生の後半の貧困を心配している
貧困と高齢女性の問題は密接な関係がある

- ✓雇用機会均等法や育児介護休業法によって、男女に同様の権利を保障し、男女の労働環境は同じであるにも関わらず...
- ✓年金受給の年齢や条件に、男女差はないにも関わらず...
- ✓退職年齢についても、理論的には、男女差はないにも関わらず...

年金は私たちの生涯所得を反映する

70才の女性実際に受給するであろう年金額の平均値は、
同じ年齢の男性のそれより、格段に少ない
それはなぜか？

女性労働者の年齢別にみた市場参加率 (%)



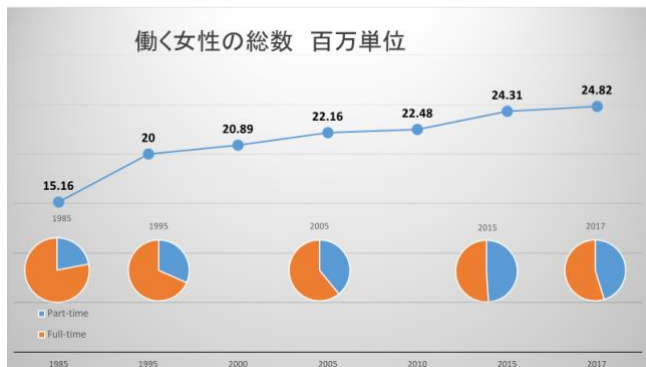
ジェンダーを前提にした女性たちの将来計画は

自身の非常に多額の生涯所得を、人生の後半で享受できる魅力的な年金を
そして、人生を通しての経済的保障を、
配偶者に頼ることによって、自ら放棄している のである。

ジェンダーを意識し、人生設計として彼女が選んだのは...
最初のフルタイムの仕事をまだ若いうちにやめてしまった。

次に働き始めた時の仕事は、給与は以前ほどよくないが、主たる「稼ぎ手」の
扶養家族であるために、自分の所得を「調整のできる」仕事にした。

働くことと暮らすことを両立させるのは、**私の責任**であって、
あの人の責任ではないと思ったから



現在の日本では、税・相続・離婚法という仕組みには、ジェンダーに基づく前提が組み込まれている。法も制度も、一見すると性別に基づく差別はないが、中立的な表現をジェンダー意識に基づいて適用し、運用する、そして、人々は、**気づかないままジェンダー意識（アンコンシャス・ジェンダー・バイアス）**に誘導されてしまっている。

↓

どうしたら、私たち自身のアンコンシャス・バイアスを克服できるのか？

✓まず、常識を疑おう！ よく考えると、結構、変なこともある

✓あなたが、10年後に、25年後に、50年後に、やっていたいことを考えてみよう！

近視眼的な四半世紀決算書は、もう止めよう。自分の人生設計は、長期投資！

質疑・応答

◇スイスからの参加者のコメント：1981年に憲法で女性の平等が謳われ、1990年に大きなストライキが起きた。それにより、女性の政治家が41%に増えた。私たちは平等を勝ち取るために戦わなければいけない。

◇ゲストスピーカより追加：現在池袋の東京芸術劇場シアターウエストにて平塚らいてうの演劇『私たちは何も知らない』が上演されているので、興味のある方はぜひ観に行ってください。

ワークショップI – SDGs Goal 5

<目的>

このワークショップIでは、SDGsと関連付けて、ジェンダー平等と女性へのエンパワーメントについて取り扱う。ジェンダー平等に向け、司法や政治の枠組みの強化や、より精緻化されたデータが必要であると認識されつつあるという点では一定の前進をみせている。しかし一方で、持続可能性のある実効性のあるものにしていくためにはまだまだ長い道のりが必要である。BPW 東アジア・サブ地域における、女性や女児のさらなる平等と持続可能性を構築するために何ができるのか、その経験や戦略について各経済地域の会員と分かち合いたい。

<モデレータ> ヤンハイ・パク BPW 韓国元会長、元アジア太平洋地域コーディネータ（2008-2011）、淑明女子大学 名誉教授 1974年にソウルクラブの設立時の会長としてBPWに入会。18年前に日本で開催された前回の東アジア・サブ地域会議の際にはリージョナル・コーディネータでもあった。

<発言者>

- ・名取はにわ（日本） 日本 BPW 連合会 副理事長、元内閣府大府共同参画局長、1995年北京会議には政府代表団の一員として参加。1999年男女共同参画社会基本法策定に携わる。
- ・イム・エイダック博士（韓国） 元 BPW 韓国・済州クラブ会長、済州大学大学院行政学研究科非常勤教授、ヴェネツィアで行われたコンGRES（1977年）に参加したのが初めての国際会議。
- ・カロライン・チョウ（台湾） BPW 台湾 リーダーシップ委員長コーディネータ、企業家、2013年にドイツでの国際会議に参加し、2014年には女性のリーダーシップについての本を出版した。
- ・リサ・フォング（香港） BPW 香港 会長

モデレータ：韓国と日本の友好を温めるために来日した。両国間では現在政治的にいろいろあるが、「BPW は BPW である（BPW is BPW.）」の精神で、友好的に行きたい。

日本： 1975年の国連女性年、世界の国々は男女平等に向け、一斉にスタートを切った。日本は、1999年男女共同参画社会基本法成立により、ポジティブ・アクションによって男女共同参画社会の実現を目指して行くこととなった。2020年までに、意思決定の場における女性比率は30%目標を掲げている。GGGIでは、2018年日本は149か国中110位とかなり低い位置にある。現在200万人余の女性が仕事を求めており、これは国の大きな資産である。女性活躍推進法が2016年4月1日に施行された。さらに政治分野における男女共同参画推進法成立に向け、日本 BPW 連合会が大きく貢献し、2018年5月23日成立。これらが明るい未来を生み出すことを大いに期待している。



香港： 香港では多くの女性たちが働いているように見えるが、実は 55%の女性しか働いていない。まず、認識することが大きなカギである。男女共同参画を要として向上のために政府に働いてほしい。現在役員レベルの女性は 13.9%であり、将来的には 30%を目指している。また、”He for She”（男女平等のために理解ある男性という意味）という活動を行っている。また、子育てについては、30%の女性がそのために仕事を辞めている。ある国際的な法律事務所では辞めずに済む方策を導入し始めた。持続可能性こそが、現状を変革するキーワードであろう。

韓国： 今回の日本での会議では、アンコンシャス・バイアスと SDGs ドミノという重要な項目について、そして BPW には各国にアイコンがいて、その方たちと国際会議に参加すると交流することができることを知った。韓国ではイコールペイキャンペーンには今までも活動してきた。韓国と日本では結婚、出産、子育て、そしてガラスの天井が存在し、それにより女性の就業率に M 字カーブが見られるところに共通点がある。今回のプレゼンテーションをするためにアナリストにインタビューをしたが、女性の就業率の低さの原因には、文化的、社会的側面があり、そこがポイントであることが判った。SDGs の目標 5 のために、私達は何ができるだろうか。①BPW Gold Award (BPW 韓国で授与されている賞)を拡大する。②労働省と連携して積極的差別是正を目指す。③社会的問題を調べる。以上 3 つを提案したい。

台湾： 台湾は男女平等が比較的成功している。ここでは台湾と他の国々の違いについて紹介したい。台湾のイコール・ペイ・デイは 2 月 18 日であり、GGGI では 8 位である。75.6%の女性が中等教育を受けている。台湾のリーダーは 2016 年から女性の蔡英文氏である。それだけではなく、この 10 年間で地域内の 20 ある都市のうちの 7 名が女性市長である。今後の展望としては、45 歳以上の女性の就業率を上げ、高等教育を受ける女性の率を上げて修士号や博士号を持つ女性を増やしたい。

質疑応答：

アスフォーIFBPW 会長（エジプト）：客観的なデータはエンパワメントにも大変重要である。役員にクォータ制のある国は 29 か国であり、アラブ首長国連邦もそのひとつであり女性が 30%いなければいけない。それによってもたらされる利益は大きい。子育てに関しては進んでいて、エジプトでは 50 人以上の労働者のいる会社は保育所を持たなければいけないことになっている。また、高等教育は重要視され、離婚に関しての法律は女性に有利なものになった。女性の暴力に対する処罰も厳しいものになっている。

ヒョン・パク サブ地域コーディネータ：さまざまな国やエコノミーの経験と戦略について知ることができた。韓国と日本には共通点が多いこともよくわかった。

モデレータ：専門家による濃い内容の発表に感謝したい。このサブ地域が、経験と戦略をもって、これから更なる進歩を遂げることを楽しみにしている。



ワークショップ II “SDGs ゴール4:質の高い教育をみんなに”

「教育を通していかにアンコンシャスバイアス(無意識の偏見)を克服できるか？」

モデレータ：布柴靖枝 日本 BPW 連合会国際委員長、文教大学大学院人間科学研究科教授、博士)

まず、モデレータがスライド(下段)を用いて、「アンコンシャス・バイアスとは何か」について説明を行い、このワークショップの内容および目的について説明した。東アジアの各国(地域)の現状を見直し、どうしたら、教育によってアンコンシャス・バイアスを克服することができるかについて話し合ってもらい、その結果を各代表が報告すること。

議論の要点は3つ:①教育をめぐる現状と課題:「あなたの住む国(地域)で、SDGs4、特にジェンダー平等を達成するために、どのような課題があるか?現状の問題は?」②課題の背景にひそむアンコンシャス・バイアス:「あなたの国(地域)では、どのような無意識の偏見が女兒・女性の不平等を生み出しているか?自分の心の中や、家庭、コミュニティ、社会の中にどのような無意識の偏見があるか?」③実行プラン(アンコンシャス・バイアスを克服し、ジェンダー平等社会を構築するための教育の在り方):「どのような教育を通して無意識の偏見を克服できると思うか?ジェンダー平等の社会を創るために具体的にどのような教育が必要か?」

(説明資料スライド1-6)

WORKSHOP II

**教育を通していかに
アンコンシャス・バイアス
(無意識の偏見)を克服できるか**

布柴靖枝博士(教育学)
日本BPW連合会国際委員長

4 質の高い教育を
みんなに

5 ジェンダー平等を
実現しよう

**ワークショップの予定
(三部構成)**

Part1. アンコンシャスバイアスとは何か?
モデレータ (布柴靖枝博士)

Part2. クラブごとに小グループ討議

Part3. グループからの発表者

*リサ・フォング(BPW 香港)
*黒崎伸子博士 (BPW日本)
*ヤン・フィーリー博士 (BPW 韓国)
*リサ・インシェン(BPW 台湾)

アンコンシャス・バイアスとは?

- 2000年頃より、物事を決定する際に大きく影響を与えるものとして注目されるようになってきた概念。
- アンコンシャス・バイアスは、私たちの日々の中で作り出される潜在的(暗黙の)ステレオタイプ。ジェンダーバイアスもアンコンシャスバイアスに含まれる。
- アンコンシャス・バイアスは、私たちの心の中、家族、コミュニティ、そして社会の中にどこにでも存在する。
- 私たちの心の中や生活に深く根ざしているアンコンシャス・バイアスが、社会を作り上げており、ジェンダー平等社会を構築する障壁となっている。

⇒よって、アンコンシャスバイアスに対する意識を高め、克服する必要がある

4 質の高い教育を
みんなに

5 ジェンダー平等を
実現しよう

たとえば

1. 出産祝いに男の子には青色、女の子にはピンク色のベビー服をプレゼントする。
2. 男子は科学が好きで理系が得意。女子は文系が得意。なぜならば女子は数学や科学の能力が低いから。
3. 育児中の女性は昇進を望まないし、望むべきではない。

4 質の高い教育を
みんなに

5 ジェンダー平等を
実現しよう

アメリカのオーケストラの例

- アメリカのトップ音楽学校修了生の女性の占める割合は約45%もあるにも関わらず、1970 - 80年のアメリカでは、オーケストラを占める女性の割合はわずか5 - 10%であった。そこで、オーケストラのメンバーの採用試験の際に、審査員と受験者の間にカーテンをひき、受験者の顔が見えないようにした。
- すると、女性の採用者が急増した。このことから2000年に採用試験ポリシーを採択し、現在は、半数近くまで女性採用者が増えている。C.Goldin and C.Rouse.(2000) American Economic Review90,715-741.

背景の中に潜むアンコンシャスバイアス

「男性の方が女性よりもいい音を奏でる」
「オーケストラはそもそも男性が演奏すべきだ」

小グループ討議

Q1. 課題の明確化-現状の把握

■あなたの地域、社会、国のSDGs4(教育の質)課題は?一特にSDGs5(ジェンダー平等)を考えた場合

Q2. 課題の背景に潜むアンコンシャス・バイアスは?

■あなた自身の心や家族、コミュニティに潜むアンコンシャス・バイアスにはどのようなものがありますか?

Q3. 実行プラン

■教育を通していかにアンコンシャス・バイアスを克服できるか?ジェンダー平等社会を構築するための教育とは?

東アジアのメンバーは国・地域別に、それ以外の参加者はふたつのグループに分かれて、上記3つの観点について、約 50 分議論した。香港+他国、日本、韓国、台湾、ネパール+タイ、インターナショナルの 6 つの小グループで熱心に小グループ討議が行われた。その後、各グループから討論の要点を発表してもらい全体で意見交換を行った。各国報告者:リサ・フォング(香港) BPW 香港会長

黒崎伸子(日本) BPW 長崎クラブ会長、国境なき医師団日本理事

ヤン・フィー・リー(韓国) BPW 韓国会長、仁荷大学教授、博士)

リサ・インシェン(台湾) BPW 台湾・台南クラブ国際広報委員長、生花実業エンタープライズ経営

◆リサ・フォング(BPW 香港)

幼稚園、小学校では 79.8%の女性教員がいる。けれども経済的に困ると男子に学校に行かせる傾向がある。また、母親には子育てのケアギバーとしての役割が期待されている。ジェンダーに関する文化的規範にもっと意識を向け、社会の中でジェンダー平等に向けて、アンコンシャス・バイアスに関して意識を高めることが大切である。そのためにも、スポーツ、おもちゃ、本、子どもたちがみたり触れたりする娯楽テレビでのジェンダー平等を進めていくことが重要である。

◆黒崎伸子(BPW 日本)

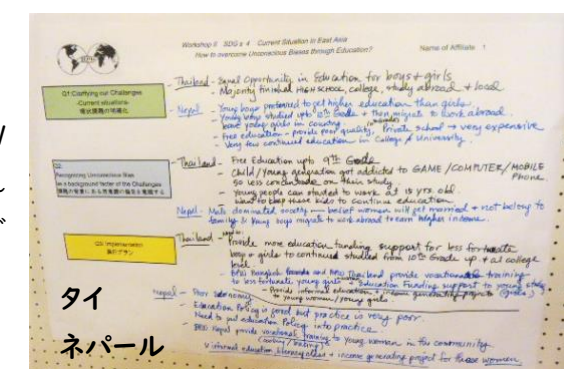
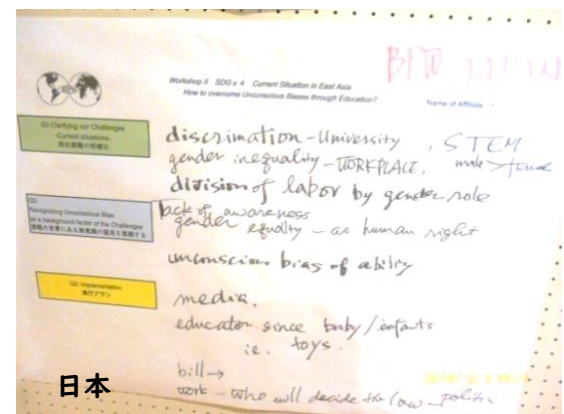
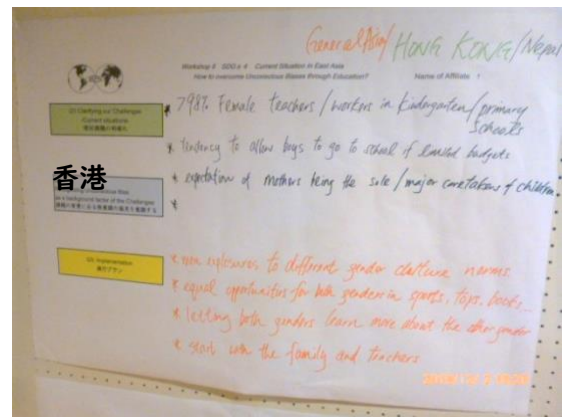
グループの中で、多くのことが語られた。特に医学部の入学試験における女子受験生への不利益扱いに関しては、最近大きなニュースとして取り上げられたところである。また、日本では女性は天皇になれない。アニメでも父親、母親、二人の子どもが典型的な家族として今なお描かれている。幼児期からジェンダー平等が人権問題であるという認識を広めていく必要がある。これらのことを推し進めるためにも政治の力は重要である。日本では、女性政治家を増やしていくことも大きな課題である。

◆ヤン・フィー・リー(BPW 韓国)

韓国では 1987 年に教育における男女平等法ができており、改善はしつつあるが、シニア層にはいまだに根強い性差別が存在し、なかなか考えを変えない傾向がある。女性は結婚後に 2 人の子どもを持ち、女性は家事をするという期待を受けて姑との間にも多くの葛藤を抱えている。また、会社でも管理職に女性はなりにくい。昨年 12 月に女性の管理職を 30%まで上げるというアクションプランが出された。シニア層の意識改革のためにも、ジェンダー平等教育をシニア層に提供するプラットフォームセンタの設立をする必要であろう。

◆リサ・インシェン(BPW 台湾)

多くの課題があり、一人で出来ることは限られているが、BPW 台湾では力を合わせ、女兒や女性の教育やトレーニングに力を入れてきた。これらの活動を通して女性のコンピテンスを高め、ジェンダー平等社会を目指して突き進みたい。



◇総括

各々の意見を聞いて、ジェンダーバイアスは、女性が入学試験を受けようとする時、結婚、出産、ケアギバーの役割を担われる時に特に大きな影響力を持つように思える。今後、ジェンダー平等を阻害するアンコンシャス・バイアスに意識を向ける教育が求められる。2030 アジェンダ SDGsを達成するためには女性のエンパワーなしにはなしえない。今日ここで話されたことを他のメンバーやコミュニティ、それぞれの政府に声を届けてほしいと思う。女性が尊厳をもってこの社会で輝きつつ暮らせる社会の構築を目指して、私たち BPW メンバーが協力して取り組んでいくことはとても重要である。



【モデレータの感想】

このワークショップでは、小グループ活動を取り入れ、母国語で話し合う時間を取り入れた。どのグループも大変熱心に討議しており、英語が主たる言語でない国や地域の集まりである東アジア地域のメンバーにとって、母国語で討議する時間を取り入れることの意義を再確認できたように思う。

アンコンシャス・バイアスを BPW で表立って取り上げたのは、インターナショナルでも、日本でも初めての試みである。私たちの常識や文化に深く刷り込まれているアンコンシャス・バイアスが、実は、ジェンダー平等社会を構築するための障壁となっていることを知る良い機会になったのではないかと思います。



“SDGs ゴール 17:BPW アジア・パシフィックの連携と未来”

モデレータ:チョンチャノック・ピラバン 元国際 BPW 会長 2005-2008 ・“違いを生み出す BPW のパワー”審査委員長

モデレータより本セッションの内容・目的の説明:各国(地域)のスピーカには、①「パートナーシップ」について各国(地域)でどんな取り組みがなされているか ②BPW アジア・パシフィックの未来について、更に発展をしていくには何が主要成功要因となるか という問いかけがなされた。

スピーカ

レーナ・ウオング (香港) BPW 香港企画委員長

澤田 順 (日本) 元国際ヤング BPW 委員長、日本 BPW 連合会東京クラブ会員

ルイーサ・クオ (台湾) 台南クラブ エグゼクティブディレクタ、台南市日台友好交流協会会長

チュララット・イスランクル・ナ・アユッチャヤ(トイティン) (タイ) ASEAN サブリージョナルコーディネータ、タイ BPW バンコク副会長兼事務局長、UNESCAP 代表

シモーネ・ファング (台湾) ヤング BPW 台湾委員長、BPW Taiwan、国際広報&アフェアーズ委員長

「パートナーシップについて」

香港: 香港は比較的新しいクラブで特に外部団体含めたパートナーシップは大事だととらえている。一例としてメンタープログラムを紹介。3 層の世代からなるチーム:①学生、②ヤング BPW メンバー、③外部団体の経験豊かなメンター、をつくり、それぞれ SDGs の概念に沿った活動提案をしていくというもの。提案を評価するコンテストも設け、優秀チームには活動に必要なサポートも用意。

日本: 日本 BPW 連合会では、様々な関連団体・政府機関・各省庁とともに協力し、活動を進めている。例として、国内で年 1 回開催される連合会総会での決議案をまとめた「総会宣言(2019 年度は「福岡宣言」)を紹介。経済・政治・教育・健康の各分野において今後の方針や推進する活動を明確にし、それを持って各省庁への働きかけをしたり、関連団体へ協力を要請していることを説明した。また、連合会総会にて発表される「パートナーシップエバルエーション賞」についても紹介。これは NGO である日本 BPW 連合会と GO(政府組織)とのパートナーシップを進めて行くために設立されたもので、同じく日本 BPW 連合会と外部組織との協力によって、更なる女性の地位向上の成果を目指すものである。こういった外部団体との協力により得られた成果の一例として、「政治分野における男女共同参画推進法案」の成立に貢献した事例も紹介。

台湾: 「誰も置き去りにしない」「皆で良い世の中を作って行こう」という内容のビデオを紹介。パートナーシップの例として韓国、フィリピン、日本とのツイニングクラブを紹介、交流会の写真などを映し出した。ヤング BPW 委員長からは SDG 18 という台湾独自目標の紹介、またヤングメンバーが外部団体や大学との協力により実施した会議の様子など説明、SDGs 推進に向けて一定の成果があったことを報告。

タイ: ツイニングを積極的に推進している。会場でそれぞれのツイニングクラブメンバーを紹介、拍手喝さいとともに写真撮影が盛んに行われた。

「今後の発展の主要成功要因について」

香港: 若い世代の活用がカギである。BPW の中でもっとヤング会員が活躍できる環境づくりが必要であり、また若い世代の声を先入観なく聞く、という姿勢が大切。人生経験豊かな世代も若い世代も、一緒に世の中を変えていくという方向に力を注ぎたい。

日本: 日本にもツイニングプログラムを実施しているクラブはあるが、それほど活発な活動はないように見受ける。今後「ダイバーシティ」をいかに発展の糧に出来るかが重要であり、他の国(地域)の成功から学習する姿勢が望まれる。文化的交流だけでなく、ビジネス・政治などに関して情報共有の機会創生、ジョイントセミナー開催など目指して

行ければ良いと思う。

台湾： 統計によると未だ約 60%の女性が結婚または出産により職場を離れ、家庭に入っている。これらの女性が社会とのつながりを継続し、また経済的に独立するためには、近年のテクノロジー：インターネットやソーシャルメディアを使いこなしていくことが必須である。データおよびネットの活用が今後益々ビジネスの創生につながることは明白であり、BPW 台湾ではそのための教育訓練を提供できるメンバーやサポート出来る体制が整っている。かたや、スピーカのうちのリーサは職業として台日友好交流協会に勤めており、日々の活動として交流活動を行っている様子を紹介。

タイ： このような会議の場を活用して、コネクションを広げていくことがカギである。直接会うことで、その後ツィニングクラブを作りつながりを継続するというのは非常に良い例。言葉が違って交流は可能。是非この会議で少なくとも一人 50 人の友達を作ることを心がけよう！

○モデレータによるまとめ

BPW は様々な国（地域）・文化・言語・職業の女性の集まりであり、今後女性の更なる発展を目指す上で理想的なプラットフォームである。ツィニングなどのプログラム、今回のようなリージョナルイベント、また国際コンgresなどを通じて、益々活発な意見交換や情報共有をしていくことにより、更に高い目標を目指して活動を行うていくことが出来る。今後もこのような機会を増やし、BPW 全体の発展、また全ての女性の発展に寄与したい。



NWEC 会場の内外でのスナップいろいろ



NWEC 初日-開始にあたってのあいさつ:平松理事長、カタリーナ (ESRC 東アジア・サブ地域コーディネータ)



開始前…かけまわるスタッフ

ナルディー (APRC アジア太平洋地域コーディネータ)



NEW 初日の
ランチ

これからの会議
に備えて…



IFBPW 会長報告

NWEC での 2 日間にわたる会議の始まりにあたり、アマニ・アスフォー・IFBPW 会長が、IFBPW と彼女自身の世界各地での活動について、かなりの枚数の PPT を使って報告した。



History of BPW International



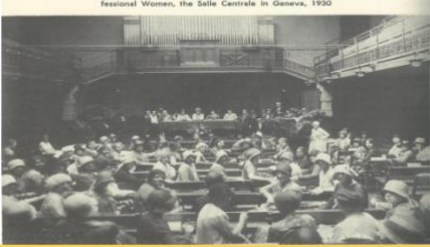
"Cooperation among all people cannot remain a dream, but something that must become actuality if our civilization is to survive. We cannot afford to wait long in this changing and changed world. It is now — not in the next century or even in the next generation, but now — that we and the men and women of all nations, must recognize that no man live unto himself, no country can live unto itself."

— Dr. Lena Madelin Philip, 1931
Founder of International Federation of Business and Professional Women

"Empowering Women to realize the SDGs"

History of BPW International

The founding of the International Federation of Business and Professional Women, The Salle Centrale in Geneva, 1920



"Empowering Women to realize the SDGs"

The BPW International Triennial Themes

Past International Themes:

- 2014-2017 "Making a Difference through Leadership and Action"
- 2011-2014 "Empower Women Leading Business"
- 2008-2011 "Power to Make a Difference"
- 2005-2008 "New Dimensions of Leadership"
- 2002-2005 "A World of Peace"
- 1999-2002 "Empowering Women for the 21st Century"
- 1996-1999 "Partnerships for the Future"
- 1993-1996 "Taking IFBPW Forward"
- 1991-1993 "Women - Environment and Development"
- 1989-1991 "Women - the Spirit of Enterprise"
- 1987-1989 "Women - The Vital Force"
- 1985-1987 "Youth Today Leaders Tomorrow"

"Empowering Women to realize the SDGs"

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



17 SDGs + 1

"Empowering Women to realize the SDGs"

Sectorial Advocacy Pillars

- Women in Agriculture and Agribusiness
- Women and Environment and Climate Change
- Women in Water and Sanitation
- Women in Energy and Green Economy
- Women and Health and Wellbeing

"Empowering Women to realize the SDGs"

The 17 Goals +1 Sustainability of BPW International

BPW International through its Affiliates across the world and its global partnerships with different stakeholders will contribute to the realization of the SDGs and the Sustainable Development of BPW International through the following Advocacy Pillars and Initiatives

"Empowering Women to realize the SDGs"

Special Advocacy Pillars
Based on the Fact that
No Women is Left behind

- Preventing Violence against women
- Prevention of Child marriage
- Empowering Women in Rural Areas
- Women minorities
- Women with special needs
- Women Migrants

"Empowering Women to realize the SDGs"

IFBPW では、国連の定めた SDGs の 17 のゴールに、独自のゴール『#18 BPW-International の持続性』をプラスワンとして掲げている。世界各地の BPW は、さまざまな国威的ステークホルダーとの連携し、左側のスライドにあるようなアドボカシーの要点*や主導によって、SDGs 実現と BPW International の発展に貢献することを目指している。

*①各分野の女性たち：農業(ビジネス)、環境・温暖化、水と衛生、エネルギーと環境保護経済、健康・幸福
②女性への暴力予防、女児結婚禁止、農林漁村女性のエンパワーメント、少数派の中の女性、特定の需要のある女性、女性移民

ディナーパーティ

2019 年 12 月 1 日 NWEC 食堂にて

朝早くに東京都内から NWEC に移動して、ランチもそこそこに、2 日目の議事に入ったので、ワークショップⅠが終了後に、参加者はまずは各部屋へのチェックインとなった。わずか 1 時間あまりで、すぐにディナー会場へ集まった。まずは、地元の子どもたちによる和太鼓のパフォーマンスで、海外からの参加者を歓迎した。女兒たちが、ステージのメインで堂々と演じる和太鼓に拍手喝采、アンコールまで披露して頂いた。



*演奏：嶋田きよし氏（埼玉県和太鼓連盟会長）
と太鼓“嵐”のメンバー



IFBPW 副会長スーザン・ジョーンズによる乾杯の後に、ビュッフェスタイルのディナーが始まった。参加者は、特に指定しなくとも、国（地域）別に座る形ではあったが、料理をとりながら他国の人と話したり、懐かしい人を探してテーブルで話したり、にぎやかなディナーであった。イスラム圏からの参加者も多く、食事については、事前に NWEC とも交渉を重ねた内容だったが、日本的要素も入れながら、ほぼご満足いただいたようである。アルコールも控えめな用意だったが、多くの会員の持ち込みもあって、楽しいコミュニケーションとネットワーキングの燃料には十分足りていたようである。



たくさんのメニューのビュッフェスタイル



ヘルシー・サラダ



ローストビーフ



煮込み



天ぷら



サンドウィッチ



焼き鳥風



シーフード・サラダ



フルーツ



プチ・ケーキ(和のテスト)



ディナーの終わりには…… IFBPW 会長のアマニ・アスフォーから、今回の東アジア地域会議開催に貢献した人たち、ヒョン・パーク/東アジア・サブ地域コーディネータはじめ、平松昌子・日本 BPW 連合会理事長ほかの日本 BPW 連合会役員たちへ、感謝のメッセージとともに、さまざまなプレゼントが手渡された。



アマニ・アスフォーIFBPW 会長と、サポートするスーザン・ジョーンズ副会長



ねぎらいの言葉に笑顔のヒョン・パーク・東アジア・サブ地域コーディネータ



お礼にマイクを握る平松昌子・連合会理事長



第2回ヤングBPW アジア太平洋シンポジウム開催に貢献した林乙羽・連合会組織委員長へも



布柴靖枝・連合会国際委員長へ



林智意・運営事務局長へ



影の立役者・佐藤道子専務理事へ

ディナーの前半に予定していたもののオーディオの不調で、回復を待っていたヤングBPWのパフォーマンスも披露された。ネパール版”恋ダンス“(?)。また、最後には、来年のアジア・パシフィック地域会議を担当するネパールの参加者がステージにたって、参加の呼びかけをした。



ラウンジトーク

2019年12月1日 NWEC

NWECの第1日目、ディナーの後に、まだ話足りなかった人たちが集まって、ひとつの課題について議論したり、会員それぞれの特技を披露したりする場として、ラウンジを提供した。前日の東京都内での1日目の会合や、当日の朝早い出発などでお疲れの方も多かったが、予想以上に多くの参加者がラウンジに集まった。



北九州クラブ・Twinning 台湾の仲間と



カタリーナ：東アジア・サブ地域コーディネータを囲んで



Ethical Flower Arrangement 長崎クラブ・辻田多希子さん



パーソナルカラーセミナー：長崎クラブ・白川鮎美さん



美しく元気なヤングメンバー・・・昔のヤング?も

クロージング・ランチ&セレモニ

3 日目は、午前のワークショップで、2 日半の SDGs 実現に向けてのさまざまな議論が終了した。最後のランチを終えて、クロージング・セレモニとなった。開催を担当した日本 BPW 連合会や IFBPW 役員、そして、アジア太平洋コーディネータ、東アジア・サブ地域コーディネータがそれぞれの思いを話して下さった。



文化体験

12月2日(月)午後

海外参加者に日本の伝統的文化を体験してもらいたいと、茶道、書道、琴演奏、折り紙の4つの選択肢を用意した。これらは、NWEC のサポートボランティア活動のメンバーの多大なご協力で実現した。NWEC 内には、響書院という茶事のできる場所があり、琴についてはボランティアの方が多くの琴を会場に持ち込んでいただき、参加された方々は、それぞれ貴重な体験をされたようである



茶道講師：宮本紀子氏(宗喜 裏千家教授)



茶道のあとに



書道 真剣に…そして、楽しく 書道講師：田村和子氏（桂舟）



折り紙 折り紙講師：佐取和子氏
 たくさんのメンバーが参加
 いっしょけんめいに鶴を折る海外からのメンバーたち
 お手伝いする日本のメンバー、出来上がって嬉しそうなメンバーたち



琴演奏体験…日本人でも難しそうだが、熱心に取り組む海外のメンバー お琴：西澤悦子氏（山田流師範）





オプションツアー：小江戸川越散策&伝統工芸紙漉き&そば打ち体験

12月3日(火)

藤川眞理子(東京クラブ)

東アジア地域会議に参加して ～オプションツアー同行メモ～

12月3日、総勢51名で国立女性会館を出発。小川町の紙の里では紙漉き体験と蕎麦打ち。蕎麦打ちは皆さん面白がってくださいましたが、フォークがないから食べられないというグループが食したのは、残念ながら、野菜の天ぷらだけ。川越では、到着時間が遅れたため滞在時間が短くなったことにブーイング、フライトの出発時間に間にあわなくなる懸念が出てきた韓国のメンバーがタクシーで羽田へ直行。私も17時半から半蔵門で会合に遅れる懸念がでてきたため川越駅から電車に乗ることを決断し、帰りを急ぐ大阪の藤原さんとともに離脱させてもらいました。このツアーに関して特筆すべきは何と言っても林乙羽さんが通訳兼添乗員?として采配をふるう頼もしい雄姿でした。



そば打ち体験 粉+水まわし⇒練り/こねる⇒打つ/のす⇒たたんで切る



参加された方がそれぞれ・・・「私つくる人!」もいれば、「私、食べる人!!」も。とても美味しそうですが・・・

紙漉き体験



和紙は、奥深い・・・



第 2 回ヤング BPW アジア太平洋シンポジウム

プログラム

11 月 30 日	東アジア地域会議 (EASRC) と合同
12 月 1 日	
14:00~15:15	第 2 回ヤング BPW アジア太平洋シンポジウム 開会式 ○あいさつ…Neelima Basnet (IFBPW ヤング委員長) Vivien Johnson (アジア太平洋ヤング BPW 代表) ○各 BPW 報告…香港、日本、ネパール、ニュージーランド、シンガポール、台湾
15:15~17:00	(EASRC) ワークショップ I SDGsゴール5
18:00~20:00	(EASRC) ディナーパーティ
20:00~	ラウンジトーク“BPW と国連、リーダーズサミット” ・スピーカ Dr.Catherine Bosshart (IFBPW 副会長、UN 担当) Dr.Chonchanok Virayan (UNESCAP バンコク代表) Chularat Isarangkool Na Ayutthaya (UNESCAP バンコク代表)
12 月 2 日	
7:00~8:30	IFBPW 会長との朝食会
9:00~10:30	ワークショップ II SDGsゴール4-地域間対話“アンコンシャス・バイアス” 『異なる地域それぞれの現状』『私たちをとりまくアンコンシャス・バイアスとは?』 『大企業 vs 中小企業vs起業家』 パネリスト:Reham Abdelkadar(エジプト/アフリカ地域) Nolwenn Germain (フランス/ヨーロッパ地域) Elaine Kwan (香港/東アジア) 林 乙羽(日本/東アジア) Aarti Bista (ネパール/南アジア)
10:45~12:00	ワークショップ III 公開討議『アジア太平洋地域のヤング BPW の将来』 検討事案:E-clubs,プロジェクト、次期アジア太平洋ヤング BPW 代表、 次期国際ヤング BPW 委員長、コミュニケーション手段など
12:00~	(EASRC) クロージング・ランチ、文化体験

ご挨拶

Neelima Basnet 国際ヤング BPW 委員長

親愛なる BPW のメンバーのみなさま

東アジア地域会議 (EASRC) および第 2 回ヤング BPW アジア太平洋シンポジウムに参加できることを大変光栄に思います。

世界の若い世代は、長期にわたる複雑な問題の解決に対して大きな責任を引き継ごうとしていますが、一方で、私たち自身の将来を左右するような決定の場から、まだ締め出されています。だからこそ、私たちは方針決定の場に参画する必要がある、ただ、正しい方針であるべきというだけでなく、人間社会の中で大きな割合を占める若者の関与によって起業による問題解決や平和構築につながるからです。どの市民・政治活動でも前線



に立つ若者の姿を目にするということは、私たちが、国を変えうる活動家やステークホルダーとして働いているということとです。若者の声は、国際的対話においても話されるべきですし、主張するための十分な力をつけるべき、かつ、影響ある変化を起こす一つのプラットフォームであるべきなのです。

IFBPW は、世界各国におけるアドボカシー、メンターリング、ネットワーキング、技術研修や経済的能力開発プログラムなレベルを通して、若い女性たちにとっては、専門性、ビジネスやリーダーシップの力を発達させる素晴らしいプラットフォームです。

ヤング BPW メンバーとは、35 才以下の BPW 会員です。2030 年に SDGs を達成するためには、若い世代が、国内でも国際的にも、受益者として、ステークホルダーとして、かつ、リーダーとして関わっていくことが、とても重要です。

私は、行動によって変化を起こしたり、SDGs 実現のために他の女性たちにも力をつけているみなさんを賞賛します。

このイベントを主催して下さる日本 BPW に感謝し、ヤング BPW アジア太平洋地域代表の Vivien Johnson と日本 BPW ヤング代表の林乙羽さんには、この第 2 回アジア太平洋ヤングシンポジウムの運営に力を尽くして下さいたことに、謝意を表します。

最後に、すべての BPW メンバーに、世界中で IFBPW の目的、使命や意義のために活動すること、および、BPW ヤングメンバーたちを鼓舞していただくことをお願いします。

Vivien Johnson ヤング BPW アジア太平洋地域代表

親愛なる BPW のみなさま

アジア太平洋地域コーディネータ Narudee Kiengsiri 博士および BPW ヤング国際委員長 Neelima Basnet とともに、この 3 年間、ヤング BPW アジア太平洋地域代表の任務を果たせることを大変光栄に思います。

みなさまへ、第 2 回ヤング BPW アジア太平洋シンポジウムへ歓迎できることを嬉しく思います。いろいろな地域から、日本に来て下さったヤング BPW のみなさん、いらっしやいませ。このシンポジウムに参加でき、本当に興奮しています。

Neelima Basnet が、すべてのヤング地域代表に対して、この 3 年間のうちに少なくとも 1 回のその地域のシンポジウムを開催するように規定しました。私の任期の間に、2 回目のヤングシンポジウムを開催できるということは、私の夢がかなったのです。東アジア・サブ地域会議を主催する日本 BPW 連合会には、その会議の一部としてヤング BPW アジア太平洋シンポジウムを開催することを承認して下さいたことに感謝いたします。また、第 2 回ヤング BPW アジア太平洋会議実行委員会のご苦勞をねぎらうとともに、実り多い成果を期待しています。



Otoha Hayashi 日本 BPW 連合会・組織委員長 前ヤング委員長 前ヤング BPW アジア太平洋地域代表

前期の 3 年間には、BPW シンガポールのヤングメンバーの多大な協力のおかげで、何とか、アジア太平洋地域における初のヤング BPW シンポジウムが開催されました。当時、ヤングの地域代表として、私はその結果に非常にうれしく思ったと同時に、このアジア太平洋での動きをさらに進展させたいと思いました。

したがって、この第 2 回ヤング BPW アジア太平洋シンポジウムは私自身の実行計画の一つであり、今期 3 年の間に約束通り開催できることを光栄に思います。そして、みなさまを私の美しい母国にご招待したことは、私の大きな言い訳になるかも知れません。

地理的かつ作業スケジュール上の理由から、日本では私一人で動き、かつ EASRC チームの一人でもありました。Neelima や Vivien が遠方から素晴らしい支援をしてくれ、アマニ会長、Narudee 博士、カタリーナはこの開催を承認し支えて下さり、日本 BPW 連合会役員は、東アジア・サブ地域会議との共催することということで、助けて下さり、このみなさまに本当に感謝します。特に、私の母、智意さんにも…。

すべてのみなさまが、有意義な BPW の時間を過ごし、次のヤング BPW シンポジウムでお会いすることを期待しています。

ようこそ、日本へ。



第 2 回ヤング BPW アジア太平洋シンポジウムを終えて

林 乙羽（日本 BPW 連合会組織委員長・前ヤング委員長
前ヤング BPW アジア太平洋地域代表/東京クラブ）

シンポジウムの成果

これまでの BPW の Congress や地域会議に参加すると、ほとんどのアジア諸国では Young は年配者の世話役となってしまう事が多々ある。そして、スケジュールがとにかく過密なのが BPW 国際会議の特徴である為、Young 同士でトピックを決めて話し合ったり、お互いを知り合う機会があまりないのが現状だ。今回のシンポジウムでは、ディスカッションとお互いを知り合う事、そして今後のアジア太平洋でどんなことをしていきたいかを話し合う、この 3 点を目的とした。

参加者は、アジア太平洋地域以外の 4 か国を含む、11 の国と地域から 16 名。ジェンダーバイアスや各地の Young の体制など、当該地域の発表やディスカッションにヨーロッパやアフリカ、北米の視点からも質問や具体例などが飛び交った。「もう 2~3 日は 欲しい」という声もあり、次回のシンポジウムも同様の内容を求める声があったのは嬉しかった。また参加したメンバーで、BPW に入った目的と所属クラブの活動がマッチしていないという Young に退会を思いとどませることもできたり、ゲスト参加した Young が母国のクラブに正式入会したりと予期しなかった貢献もできた。

ヤングシンポジウムの実現まで… “やっと 2 回目 ~アジア太平洋地域 Young の集い”

「ヨーロッパでは Young BPW のシンポジウムが毎年あるが、アジア太平洋では前例が無い」

会員になった直後の Jeju International Congress 2014 (韓国)に参加して、当時の APRC であるスーザン(オーストラリア)から聞いた話だ。その直後、自身が 2014-2017 triennium の「アジア太平洋 Young BPW 代表」に任命された。Jeju で出会った各地の Young BPW メンバーたちや、スーザン、IFBPW 会長のヤスミン(メキシコ)とも親交を深め、2017 年に地域初の Young BPW シンポジウムの開催が実現した。参加者が興味を持つ内容のセミナーが詰め込まれた「タメになる会」となり、開催してくれたシンガポールには感謝のしようがない。しかし、現地の責任者の「任せて!」を信じて一任した結果、大赤字のイベントとなったのも事実である。セミナーの内容以上に、いろいろと学んだ貴重な機会となった。

その後、私の後任となったビビアン(NZ)、Young BPW International に着任したニーリマ(ネパール)と私は、何が何でも未来につなぐと、第 2 回のシンポジウム開催地を模索していた。南米ではリージョナル会議と抱き合わせて Young のサポートをするのだが、2018 年の Bangkok リージョナル会議には組み込んでもらえず。考えあぐねていたところに、日本での東アジアサブリージョナル会議開催が要請された。そして、Young BPW に協力を惜しまない日本 BPW が、東アジアと同時開催という形で救いの手を差し伸べてくれたのだ。

前回の反省を生かすこともだが、日本国内で動ける Young が単独であること、現在の APRC と SRC はゴマスリが必要な相手であることなどから、ビビアン、ニーリマと 3 人で連日のチャットと、週 1 の電話会議で内容を密に詰めた。その結果が、前頁にあるようなプログラムである。

東京でのショッピングやパーティを楽しみにしていた人も多かったので NWECC への反応は心配だったのだが、現地でも無礼講で涙が出るまで笑ったりしてくれる皆を思い出すと、やって良かったと思える。改めて、日本 BPW の Young への支援と理解に感謝したい。いつもありがとうございます。



日本に集まったヤング BPW たち



左端: Neelima Basnet (IFBPW ヤング委員長)

右端: Vivien Johnson (アジア太平洋ヤング BPW 代表)



12月2日朝は、7:00 から IFBPW 会長と朝食会



日本 BPW 連合会メンバー参加者の声…北から南から (クラブ別)

札幌クラブ

OBPW International の活動の動きがアマニ会長のスピーチ等で直に感じ取ることができ、距離が少し縮まった。東アジアの各地のクラブは、比較的若いメンバーが多く、ビジネス等の成功に向けてポテンシャルを高め、ネットワークを築くためのプログラムやプロジェクトに力を入れており、日本のクラブの活動とはかなり異なる色彩を感じた。参加して得られた刺激を、今後どのように生かせるのか考えてみたい。(成田教子)

○初日のみの参加でしたが、SDGs の講演、6名出場のヤングスピーチコンテスト(ブロック選考会)、懇親会、と以前参加した国際会議を思い出すような活気があり、当時それらの会場で会った人々が IFBPW 役員として来日されたのを見て、BPW の活動の流れは止まらずに進んでいることを実感しました。GGGI の日本の順位を直視しつつ、世界で女性に起きている様々な問題を知り、解決する術を考え、行動し続けたいと再認識しました。(二ノ宮寛子)



○去年タイの会議に参加した時、各地の方たちからいくつものプレゼントを渡され、大変感激いたしました。今年は何か心あるものを札幌クラブで用意してはということになり、私が担当いたしました。写真は2020年の干支にちなんだ置物で、中には鈴が入っています。30個を札幌から NWECC に運び込みました。今各地の会員の手元にこのネズミが置かれています。繋がるということは本

当にささやかな心遣いが叶えることだと実感しています。(林 美枝子)

○私は今回初めて国際会議に参加しましたが、若いメンバーの多い香港、非常にパワフルな台湾など、国や地域ごとに特徴を感じ、また各地のBPWの活動が意義深いものと理解が深まりました。ワークショップⅡの「教育を通していかに無意識の偏見を克服できるか？」では、国や地域別でグループに別れて議論しましたが、短い時間の中、活発な意見交換ができ、その結果を日本代表として黒崎さんが的確に発表され、BPWJAPAN のレベルの高さにも感服しました。(三浦晶代)



東京クラブ

○本当に東アジアサブリージョナルカンファレンスについてはお疲れ様でした。私は会議のロジをたくさん見てきましたが、ホテルとの調整等本当に大変だったと思います。特に海外からの参加者の動向についてはご苦労されたと推察致します。司会の澤田さんは見事でいらっしゃいました。田瀬さんの講演内容はもっといろいろな方に聞いていただければと思いました。(青柳優子)

○2004年にネパール・カトマンズであった BPWI アジア太平洋会議に参加した仲間と会えるかと、15年経ったけれど、good old days を思って参加しました。年齢的に嵐山に泊まることも、毎日、研修棟往復することも無理かと思いましたが、役員のみなさんのおかげで、最後まで元気で参加できました。このような会議は、国



際でなく民際を大事にすることに意義があると思うのです。韓国と日本は現在うまくいってなくとも韓国 BPW の人とは仲良くできる。ネパールの働く女性の現状は？ 韓国は？ タイは？ 台湾は？ 香港は？ 共通の話題は？ 等々。

集合写真の時、私は真ん中の椅子に座る羽目になりました。誰かがアマニ会長にと椅子を持ってきたのですが、アマニは上の段に居て、ここでよいと言ったので、私がアマニに「私は BPW と同じ 1930 年生まれだ」と話したら、椅子を勧められ座ったのです。サヨナラパーティーの夜、韓国のカタリナ・パクさんと東京クラブの数人とグラグラ笑って遊んでいたら、アマニとイタリアの方が来て、アマニが私にハグして、エジプトのネフェルティティのパピルスとクレオパトラのショルダーバッグをプレゼントしてくださいました。来年 90 歳になる BPW と同じだと言うことで…。

最後に、都内から嵐山への移動で紅葉も愛でられ、毎日、宿泊棟と研修棟の往復で運動もできたし、とてもよかったと思っています。この会議の運営に携わった皆さま、ありがとうございました。お疲れさまでした。(安陪陽子)

○久方ぶりの参加でした。昔、参加した世界大会に比べるとアジアという地域大会だったからなのか目的に向かうというよりは親しく交流がメインのように感じられました。それはそれで 1 つの目的ですが、議論をして発信するという意識が希薄でお祭り騒ぎのような国や地域もあり、真面目な日本人には戸惑いもあったかと思いました。また逆にそれなりの楽しみ方を我々も持てたらと少し心を開放してみたいとも思いました。かの女たちは心も身体もでしたね。お国柄、それぞれです。アフターでは私も楽しみました。(菊池廣子)

○3 日間の日程が、まずは事故なく無事に実施できたこと、スタッフの皆様のお陰と感謝致します。150 名超もの参加の皆様は外国・国内含め様々なメンバーがいっぱいでしたが、ほとんどの皆様は会議運営にポジティブな感想をお持ちだったようで、日本スタッフの「おもてなし」の心が十分に伝わったのはとても良かったと思います。

司会進行役としての感想は、皆様まずまず時間を守っていただいていたので、困難な場面はなく、スムーズに進行出来たと思います。ただ、あまりに写真撮影の熱意が高いことには少々驚きました。進行にお構いなく何枚も何枚も撮っている姿はかわいいとも迷惑とも思え、でも、リージョナルでメンバーが集まる貴重な機会なので、しょうがないか、とも思いました。また、特に外国メンバーからは、いろいろな質問・要求・お願い・変更・直前または突然の申し出、忘れ物、、、と、何かとありましたが、日本スタッフは本当に何とか応えてあげようと一生懸命動いておられたことに頭が下がりました。(澤田順)

○東アジア地域会議の印象は、大人数参加の台湾は、ビジネスウーマン的な雰囲気と蔡総統などあらゆる方面への女性参画の自信を感じました。韓国は日本と政治的・経済的な緊張関係にあると報道されていますが、ジェンダーイコールを共に求める女性たちと交流は何の違和感もなく楽しいものでした。香港は昨年民主化運動で騒然としていたとの報道ですが、BPW の若い会員たちは元気いっぱい英語も素晴らしく羨ましかったです。いずれも海外からの参加者は自らの主張をアピールするエネルギーがすごいと感じ入りました。(斎藤京子)

○東アジア、は、やはり全日程のプログラムごとに振り返らないと、全部参加できていないので、連合会委員の皆様本当にお疲れさまでした、としか申せません。京王プラザ部分は、こんなケースでは致し方ない、としてもよいように思えました。が、全体の事情が見えているコアスタッフと、私を含めてヘルプサイドの東京クラブ員との連携が、細かいところは仕方がないにしても、机上のプラン通りに進まないことが多々ある中、ちょっとクラブ員が何をしたいかわからないままになるもったいないシーンがあったように思いました。お仕事ごとにゆるくていいので、一応パートリーダーを置いておいた方がスムーズだったかと思いました。(田代早苗)

○今回の参加により改めて日本 BPW が国際的組織であることを実感しました。日頃の月例会では経験できない世



界の BPW 会員との交流を通じて力強い刺激を受けました。田瀬氏の基調講演、各国/各地域 BPW の SDGs 取り組みの報告、会員全員参加型のワークショップでの討論などの充実した時間より SDGs 達成の基本とも言える目標5のジェンダー平等に対する認識が深くなりました。

今後とも、女性のエンパワーメント活動に BPW の一員として参加していきたいと思います。(寺岡則子)

OBPW International の会議に参加していつも思うことは、日本 BPW の素晴らしさです。常に男女共同参画社会の実現に向けて、政府・社会に働きかけていること。お金の使い方がきれいであること。私利私欲に無関係であること。今回の降って湧いたサプリージョナル会合も、平松理事長率いるチームが、様々な難題を克服して、見事に成功しました。受け入れ段階からの日本側の記録を、きちんと残すことが大事だと思います。(名取はにわ)

○2018 年 10 月タイ・AP コングレスでサプリージョナル会議の日本開催が決まり、その場に居合わせたことから、BPW International と日本 BPW の交渉窓口を仰せつかりました。語りつくせないほどのタフな交渉も多々ありましたが、最終的には、ほぼ日本 BPW の思う通りに実行できたのではないかと思います。多様な文化背景をもつメンバー同士の協働作業は予想以上に困難を極めました。目標を共有して多文化共生していく在り方を学ぶ貴重な経験になりました。(布柴靖枝)

○今回、全体を通じて事務局の一員として携わりました。主に海外メンバーの対応とプロ



ラム作成を行いました。コミュニケーションを取ること、そして期限を守ることの重要性を伝えることの難しさを痛感いたしました。相手の国の文化的背景を考慮する必要性、立場や上下関係も加味してコミュニケーションを取らねばならぬことも多々あり、大変忍耐と学びの深い経験ができたことは、嫌みではなく貴重な体験だったと思います。少ない人数、少ない予算、限られたスペースで可能な限り、知恵を絞って企画したプログラムを喜んでもらえたことが、とてもうれしかった。(林 智意)

○当初はかなり緊張していましたが、振り返ってみれば、既に何十年に及ぶ BPW International の会員活動により醸成されている「信頼感」の中に私も交えて頂いたわけで、和やかな中、「SDGs はジェンダー平等の1つの本質」という会議テーマのもと、各国・各地域、各自が、様々な職業、立場でそれぞれの役目を果たし懸命に参加しているという印象を、私の乏しいヒアリング力からですが持ちました。初日ディナーでは韓国の方々と同テーブルになり、#Me Too 運動の高まり等で合計特殊出生率は約 0.8 台に推移したという一足速い話題あり、香港でもまだ金融機関での女性進出が遅れている等、私の知らない情報が沢山あり。さらに、会議終了後、想定外の FB お友達申請を頂き、今後の世界が少し広がりそうです。日本国内開催ということで、前半のみではありますが、BPW International の会議に初参加し、日本の女性教育の聖地—NWECC にも送迎バスのお蔭で負担なく初訪問できました。(松浦なつひ)

○京王プラザホテルと NWECC という 会場の選択が大変良かった。「文化体験」のプログラムは、皆さんに楽しんでもらえる良い企画だった。茶道では、ボランティアの方が海外からのゲストに日本の文化を体験してもらいたいという思いが強かったようで、ゲストへの要望も多く(写真厳禁、茶室でのおしゃべり厳禁、隣室で静かに待機等)、最初はちょっと厳しいかなと思いましたが、皆さんそれなりに楽しんでいたので、最後には一緒にスナック写真をとったりと交流が広がったようでした。(柳下真知子)



山梨クラブ

○東アジア地域会議に参加して、ホスト国としてあまり準備に参加することができず、申し訳なく思っているが、前々回の台湾での地域会議に比べると、その時はクラブ会員 6 名で和服を着用しての参加で、自分たちとしても海外もクラブ会員として参加できたことは大変意義深いものであった。しかし今回は 1 日目のヤングスピーチコンテストには力を入れ、ヤング 3 名を連れクラブ会員 5 名で参加でき、少しでも海外の方との交わりができたことをうれしく思う。ただ、時



間的に基調講演を最後まで聴いていると山梨に帰れないこともあり、残念でした。2 日目からは私 1 人のみの参加であったが、4 日間を通して私自身は民族衣装の着物で通すことができ、実り多い地域会議であった。(深沢公子)

大阪クラブ

○SDGs の事前学習を踏まえて大阪クラブ 3 名、期待を胸に NWECC に向かいました。世界的目標 SDGs をテーマに“ 東アジア地域会議 ”の JAPAN 開催は、ホスト国メンバーとして、誇らしく、意義深いものでした。各 BPW の活動報告、講演、WS、笑顔の懇親交流会、日本文化体験等々、熱気溢れる会議の成果を今後の実践に繋げ、参加者一同、目標達成に向かって、partnership 出来る事を幸せに思います。開催の決断から終了迄、平松理事長をはじめ、運営委員各位の陰のご苦勞に敬意を表し、感謝致します。(加藤佳津子)

○東アジアの中には、ジェンダー平等の推進がなされている国や地域もある。松田友紀子氏のあいさつの「ジェンダー平等と女性のエンパワーメントを推進していこう」との言葉には共感を覚えた。紙谷先生のお話によれば、日本では、ジェンダー平等に向けての法改正がなされている分野もあるが、一般には、ジェンダー認識について無意識であり、その克服が必要とされる。日本では、ジェンダー平等の推進に向けての対策実行の必要性を感じた。(後藤安子)

○初めて、国際的な会議に参加させて頂き、大きな感動と、今後の自分自身の課題について考えさせられる有意義な日々でした。私は、英会話が出来ればもっと世界の方とコミュニケーションが出来たのにと、語学の必要性を痛切に感じました。そして、パワフルな海外の女性に圧倒させられました。国や環境の違う女性が集まり女性のエンパワーメントを高めるためには、どうすればよいのかを意見交換し、実現するためにはどうすればよいのかを話あったのですが、世界中の女性が手をつなぎ一丸となれば平和で安心できる世界になるのではないかと心から思いました。すばらしい、機会に恵まれた事を心より感謝いたします。

ありがとうございました。(藤原厚子)



○田瀬さんの基調講演はとてもわかりやすく、SDGs をさらによく理解できる内容で、1 日だけの参加でも、行ってよかったと思いました。(河田英子)

和歌山クラブ

○あふれるエネルギー!弾ける笑顔!圧倒的なパワー! ...海外からのメンバーはじめ皆、真の女性の平等に向けて真剣で積極的な参加でした。海外メンバーは活動のアピールも力強く、大いに触発されました。ヌエックで開催できたことも意義深く良かったと思います。又、ヤングの皆さんが会議や交流の場で大いに盛り上げてくれたことも功を奏しました。日本の英知、工夫、おもてなしの心で成功裏に終わられたこの会議への参加は、今後のモチベーションにつながる貴重な体験となりました。(小原智津)



香川クラブ

○国際会議を日本で開催するに当たって、企画はもとより、他の国や地域の会員との交渉・連絡が一番大変だったようだ。文化の差・言語のニュアンスなどによるコミュニケーションギャップもあり、担当された方々の忍耐・苦労には感謝しかない。気遣い・おもてなし・日本文化の体験などは好感を持たれたと思うし、ヤングのパワーや夜のミーティングの盛り上がりは、予想以上であった。このような機会にめぐり合えたことは、大変貴重な経験となった。(岡内須美子)



福岡クラブ

○特に、ヌエックで行われた2日間のワークショップ、毎回の食事、パーティ、文化体験など、すべてが私には新鮮で、大変充実した内容であった。国内外からの参加者との話し合いで、各地の BPW の活動が把握でき、多くのことが学べ、刺激を受けることができた。また、開催期間中、東奔西走しながら最善を尽くす実行委員の方々の仕事に臨む姿勢から格別な感動を受けた。今度の大会参加は、今後の私の人生と仕事への取組みを考えてみる契機となった。

(ベ・ヘション/Haesun Bae)

北九州クラブ



○台湾からの参加者…赤い地に花柄のユニフォームが大会議室の 5 分の一ほどを占めていたのではないだろうか。北九州クラブは大台中クラブとツィニングを実施している。また、数年前には台北クラブから南の高雄クラブまで、リユニオンで案内していただいたため、台中及び台湾のクラブの人は勿論、台湾以外の国や地域の人にも懐かしさを覚えた。(黒岩英子)

○初めて BPW インターナショナルの国際的な会議に参加させて頂き、国内外の BPW の会員の皆さまと楽しく交流ができ、とても勉強になりました。2 日に及ぶ素敵な先輩方のお話を通じて BPW の会員の一人であることに誇りを持ち、今後ジェンダー平等を実現する為に微力ながら力になれるよう頑張りたいと思っております。最後に、皆様のおもてなしに感謝しております。以上、簡単ではございますが、私の報告とさせていただきます。(末永星月)

○ワークショップⅡ SDGs goal4:質の高い教育を皆に参加し、ディスカッションを通して、女性の理系の教授や県知事が少ないのはなぜなのか、アニメ等で理想の家庭像を押し付けられているのでは等の問題点を挙げていく中で、自分自身に無意識の偏見があるかもしれないと客観的に考えることができた。また、東アジアの地域の発表を聞いても、同じような悩みがあることも知ることができた。問題点を共有したり、ディスカッションできるように語学力が必要だと実感した。(高見佳代子)

○1つの目標を掲げることが、異国の人々の心を繋ぎ、紡いでいくということを実感しました。会場でお互いが交わす会話は「ジェンダー平等」という合言葉を交わしているようでした。また、台中クラブ(ツイニング)との再会は、同志との再会というような不思議な感覚に襲われました。今回の大会を通して、東アジアの女性たちのエンパワーメント向上が、未来への選択肢を広げ、持続可能な社会の形成に繋がると確信しました。ありがとうございました。(徳永康子)



○充実した 4 日間だった。京王プラザホテルでの基調講演『SDGs の実現に向けて』、ヤング・スピーチコンテスト。NWEC での各 BPW のレポート、ワークショップ、ラウンジトーク、ツイニング、文化交流セッション。全てのプログラムは目的実現へむけて収斂された。これまでの豪華絢爛(?)を競うような BPW の国際会議の在り方に一石を投じたと言ってよいだろう。しかし、殊に異なった政治文化背景を持つ国・地域からなる東アジアの BPW federation であるだけに、本会議開催に携わられた BPW 連合会の役員の方々のご苦勞は、いかばかりだったかと推察する。(花崎正子)



長崎クラブ

○身近な国や地域の女性達の男女平等への取り組みを学ぶことができ、有意義な会議でした。特に男女の収入の格差の問題は、いろいろな視点から原因を考える機会を与えられました。国際会議に出席するには英語力が足りないことも痛感しました。今後の課題にしたいと思います。(伊東浩子)

○1 日目の田瀬さんの情報豊かな講演が、それだけで終わってしまったのが残念だった。NWEC での 2 日間のワークショップでは、東アジアの国や地域の中でも遅れている日本を感じざるを得なかった。また、発表だけに終わらず、意見交換をしながら BPW としての在り方、SDGs への取り組みが見えるとよかったのではないかなとも思う。準備に奔走した役員や東京クラブのみなさんに大感謝しかありません。(黒崎 伸子)



○「unconscious bias への平等性」 誰かの犠牲に成り立つ合理化ではなく、一人一人が内的規範を持ち、尊重された協力のもとに、今ある課題に向き合って進化していくことが大事です。その為には、広い視野にたつたうえで、興味関心を持つことであり、ワークショップ形式でディスカッションした際にも、そして、国際交流の中でも、自分の無意識の常識をも改めて疑う必要性を感じました。(辻田 多希子)

○初めて国際会議で、多くのセッションが英語で脳みそがパンク寸前でしたが、とても有意義でした。女性を取り巻く世界共通のキーワ



ードは unconscious bias-その呪術的なすり込みは、日本以外でもありました。「元始、女性は太陽だった」、この言葉通り、明るく笑顔で仲間を尊重し讃えあう BPWI 役員の方々に絶大なパワーを頂き、SDGs#5 実現に私は「Become a Politician!」を宣言しました。（白川 鮎美）

○民主党政権の際に仕分けの対象となっていた NWEK を初めて体験しました。都心から離れていましたが、食事も美味しく、使いやすく、大浴場もゆっくり休めて、研修施設として良かったと思います。もっと宣伝して、もっと使っていきべき施設だと思いました。地域の皆様の国際交流もすばらしかったです。準備お疲れ様でした。（鶴田 雅子）



基調講演の田瀬氏

謝意を示す平松理事長

講演後には内外から質問が…



大阪クラブ・河田会長は「子育ての課題は？」

IFBPW 元会長・Chonchanok からも…



初日のディナー



SRC(東アジア・サブ地域コーディネータ)のカテリーナ(左端)からの謝意の品を手にする IFBPW 役員たち

実行委員会および関係者の報告

1) 参加者総数 155 名(内訳: 東アジア・サブ地域会議 139 名+ヤング BPW シンポジウム 16 名)

国・地域別参加者数 * () はそのうちのヤングメンバー数

東アジア・サブ地域: 日本 74 名(1)、台湾 41 名(2)、韓国 7 名(1=ゲスト)、香港 3 名(2)

他のアジア太平洋地域: ネパール 13 名(5 名)、タイ 7 名(1) オーストラリア 1 名、ニュージーランド 1 名(1)

シンガポール 1 (1)、中国 1 (1=ゲスト)

その他の地域: エジプト 2 名(1)、スイス 2 名(1)、フランス 1 名(1)、イタリア 1 名

参加者に配布した資料⇒

プログラム

SDGs バッジ

BPW-Japan リーフレット

EPD クリアファイル

メモ手帳

ボールペン

LED 携帯ライト



初日の京王プラザ受付(国・地域別)は多くの会員で対応↑

2) 展示・掲示など



国内外から短時間に受付する人が集中することに備えて… 案内の掲示や、国・地域別に受け付ける準備



受付の対面の壁には、EPD (Equal Pay Day) についての国内の各活動を展示

3) 運営に関して

◎開催決定～会場確保・プログラム確定まで

2018年10月末日、タイカンファレンスのプレジデント・ミーティングにおいて、東アジア地域会議の日本開催が決定した。日本での開催可能時期は2019年11～12月。帰国してからは時間・資金・人とどれもナイナイ尽くしてスタートを切った。まずは会場であるが、近年BPWの国際会議は、会議というよりパーティばかりのプログラム、その上大切なビジネスセッションもショッピングや観光にいくため、途中で抜け出す始末。そのような会議の在り方に疑問を持っていた日本チームは会場を2か所で行う企画をまとめた。初日に都内のホテル(京王プラザホテル)でスタートし、翌日からは、まとめて国立女性教育会館(NWEC)での缶詰状態でトコトン話し合おうという平松理事長の作戦を実行した。実は、平松理事長には、海外の方々に対して、「我が国唯一の女性教育に関するナショナルセンタとして1977年に設立されたNWECがあり、女性教育に関する研修や交流の機会を提供する以外に、専門的な調査研究や情報発信によって、BPWと同じく、単なる男女共同参画社会の実現ではなく、フィフティフィフティの社会をめざしている施設であることを体感してほしい」という強い願いがあったことを付け加えておく。(林 智意・運営事務局長)

◎海外参加者との連絡等(登録費の徴収などを含む)

今回のカンファレンスで海外メンバーの登録手続きを担当した。登録はGoogleフォームを使用し、支払いはPayPalを導入した。初めての試みではあったが案外手続きはスムーズに進めることができた。問題が生じたのは料金に変更になる10月末のことだった。多くは早割適用期間に手続きをしてくれていたが、普段あまりメールを見る習慣のない人たちが早割期限を過ぎても手続きをせず、料金を変更してから早割料金を適用せよ!というやり取りが1か月ほど続いた。結果的に早割が適用されないことに不服なようで支払いはなされなかった。また、東アジアの場合、PayPal決済が思ったより普及しておらず、台湾は参加者全員分、まとめて銀行振込みとなった。海外参加者とのやり取りについては、どれだけ事務手続きが簡素化できるか、また、わかりやすいかは重要なポイントである。できるのか、否か?YesかNoか?明確であることが重要だと今回改めて実感した。(林 智意・運営事務局長)

◎IFBPW役員との折衝など

2018年10月に開催されたアジア太平洋地区会議のプレジデント会議に平松理事長と共に出席し、東アジアサブリージョナル会議を日本で引き受けることになったその場に期せずして同席することになった。最終判断をした経緯は理事長に譲るが、日本としては、引き受けるからにはホスト国、日本の方針で行いたい。それができないのであれば、ホスト国をいつでも辞退する、という平松理事長の強い意志と姿勢で臨むことになった。そして、いつの間にか私はInternationalとの交渉窓口を命ぜられ、その後に展開する実にタフな交渉役を担うことになった。今回、特に①東アジア地区は、各所で政治的葛藤が生じていたこと、②ホスト国(日本)とコディネータの国(韓国)が異なる、というなかでの準備作業になったため、かなり気をつかう難しいに状況にあった。こうした中で、SRCのカタリーナ(韓国)、そしてAPRCのナルディ(タイ)、そしてその背後で見え隠れしているノック(タイ)との交渉が始まった。蓋を開けてみれば、日本の提案にその都度、何らかの異論が送られてくる状態であった。たとえば、①登録料が高すぎる、②会場を2か所ではなく、1か所になぜしないのか、③ヤングシンポジウムを共催する話は聞いていない(このことで交渉は2か月ぐらい硬直状態に)、④登録システムがまずい等など、次々と口を出されることになった。その都度、日本の考えを伝え、納得いただく根気のいるやりとりが求められた。誤解が生じたり、大会冊子用の原稿が集まらず、締め切りを2か月以上も延ばさざるを得なくなったり、実に様々なことが起こった。

また、政治的な問題から韓国BPWの参加者が少なくなったのは残念なことであった。東アジア地区のアフィリエイト(加盟クラブ)は、様々な歴史的な政治的課題を抱えている国・エコノミーの集まりである。それゆえに、なおのこと、ジェンダー平等を目指すというBPWの大きな目標に向けて手を取り合っていくという活動の原点を忘れてはならないと痛感した。また、時間の管理、急な予定変更、締め切りの意味などは国や文化によって価値基準が大きく異なる

ため、緩やかで柔軟な設定と、限界設定を同時にしていく必要があることの学びを得た。多様な価値観、文化背景を異にする人との協働作業は口で言うほど、簡単なことでないことを、肌身をもって感じるようになったが、それを乗り越えられたときの喜びも味わうことができたように思う。また、国際 BPW の人間関係やパワー関係もよく見えた。私たち NGO 女性団体は男性中心社会の悪しき轍を踏まないためにも、もっとパワーに敏感になる必要があるだろう。NGO 活動にもかかわらず、上下関係と、権力志向が強いのもアジア太平洋地区の特徴かと思った。

実に色々あったが、最終的にはチーム Japan の底力を国際 BPW に示せたのではないだろうか。最後は多くの参加者が喜んでくれ、大ハグ、で終えられたのも良かったと思う。(布柴靖枝・国際委員長)



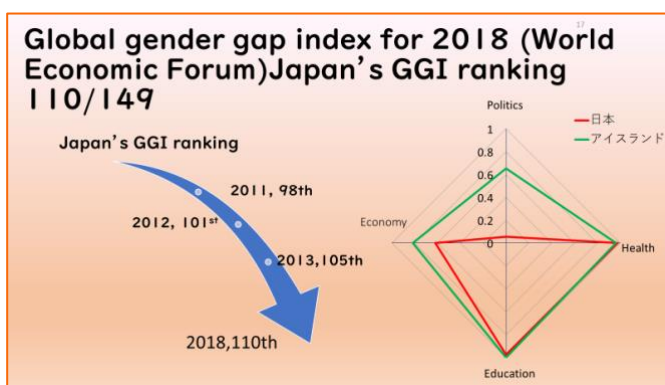
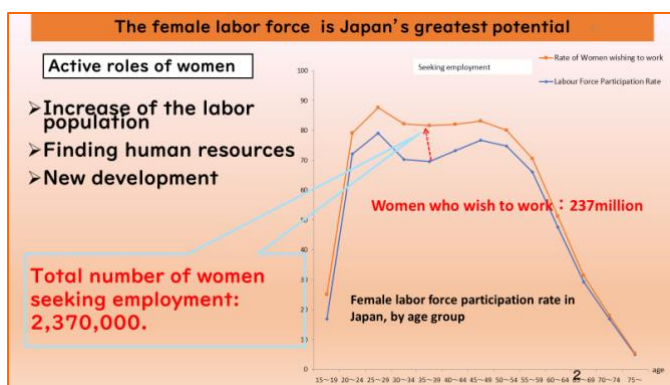
(あの日、裏方では…)

寄付者一覧

今回の会議開催に対して、多くの会員からご寄付を頂きましたので、ここに報告いたします。ありがとうございました。

参加者記念品 ^{#1} ・出演者記念品 ^{#2} ・ピング景品 ^{#3}		ティータイム・懇親会・ラウンジトーク	
河田英子(大阪クラブ)	今治ガーゼハンカチ ^{#1}	澤田順(東京クラブ)	ティータイム用：緑茶、コーヒー等
藤原厚子(大阪クラブ)	トラ焼き(G20 御用達) ^{#1}	中山由美子(東京クラブ)	アルコール多種、紅茶等
志野久美子(京都クラブ)	刺繍タオル ^{#2}	藤田ひろみ(福岡クラブ)	アルコール各種、菓子類等
垂水和水子(熊本クラブ)	天然素材シャンプー・洗剤 ^{#2}	林 智意(東京クラブ)	カップヌードル
黒崎伸子(長崎クラブ)	EPD バッチ、ハンカチ等 ^{#3}	岡内須美子(香川クラブ)	菓子小袋詰め合わせ
鶴田雅子(長崎クラブ)	ハンカチ、小物類、食器等 ^{#3}	小原 智津(和歌山クラブ)	各 150

*ページの余白を使って、WSIで名取はにわ副理事長が示された貴重なデータを 3 枚だけ掲載します。



編集後記

3 日間の会議の現場では、受付係や PC のスライド映写担当で、スピーカと PPT を間違えないようにハラハラ、直前に音響入りを流したいなどの注文にドキドキ・・・、それも臨機応変に対応して下った役員や東京クラブの方々に助けられました。というわけで内容にほとんど集中できず、この編集をしながら、改めて素晴らしい内容の発表や議論だったことがわかりました。今回、「3 音ルール」(電気、IT、機械等分野の文書では、3 音以上の語には長音記号「ー」をつけない慣用上の原則)を学びました。例えば、「モデレーター」⇒「モデレータ」。一部のみなさんには、不可解に思われたかも知れませんが、ご理解下さい。(の)

総 括

チーム・ジャパン!

平松 昌子実行委員長(日本 BPW 連合会理事長)

いろいろな経緯があって、バンコクでのアジア太平洋地域の役員会では「日本で東アジア地域会議を開催してほしい」という要請を断れなかった。その夜、ホテルのベッドで対応策が眠りを妨げた。複雑な国際関係の中にある日本。オリンピックを前にすでにスポンサーを開拓することは極めて難しい。さらに時間がない。

たどり着いたのは、予算をかけず、参加者が意見を交わすイベントにすることだった。そのために、NWECC を使おう。しかし外国からの参加者を空港から、いきなり NWECC へというのは無理がある。その解決は、「京王プラザホテル」で幕を開け、そのあと、嵐山までバスで運ぼう。そこまで考えたら気分が楽になった。

もう一つ、バンコクでの最後の役員会で確認しておかねばならないことがあった。「開催まで時間がない。帰国後日本での役員会に諮るが、日本からの提案を受け入れてほしい。それがダメなら、開催を返上する」。ナルディ・APRC は「決めれば勝ち」という気分で、深刻に受けとめていなかったかもしれない。10月のバンコクでの会議から、日本での開催まで、サブリージョナル会合は、コンGRESの前年に終わらせるという慣例を考えれば、あと1年もない。

帰国後の役員会ではいろいろなご意見が出されたが、大筋で日本開催を承認していただき、早速、さっそくチーム作りが始まった。最も苦労が想像されるBPW Internationalとの交渉窓口を布柴国際委員長が引き受けてくださった。想定される会場の折衝を林さん、佐藤さん、中山さんが走り出してくださった。最大の難関となる外国からの参加者の会費集めについて、林 智意さんと乙羽さんが動き出した。また、東アジア情勢が微妙な時期にも関わらず、内閣府男女共同参画局、外務省、文部科学省のご後援をいただいて開催することができたことにも、改めて感謝したい。

そんな中で、一番体力のあり、そして誰もが頼りにしていた居石さんの訃報が届いた。この前の東アジア会合の時にアマニ会長らと共にエレベータ(閉じ込められ)事件を経験された濱田さんもアマニらとの再会を果たさず旅立たれている。そうした仲間への思いを胸に、東アジア地域会議は無事、終了した。1年足らずの時間で実りある会議を成功させることができたのは、“チーム・ジャパン”として、One team で皆さんが努力してくださったおかげと思う。通訳の世話、記念品の提供、そして当日の運営進行を担当してくださったお一人お一人に心からのハグを贈りたい。外国からの客人も、だれ一人取り残すことなく、実りをもって帰国された。



認定 NPO 法人 **日本 BPW 連合会**

初版：2020 年 3 月 1 日

頒布価格：500 円（税込）

〒151-0052 東京都渋谷区代々木 2-21-11 婦選会館ビル 303

TEL 03-5304-7874 FAX 03-5304-7876

E-mail office@bpw-japan.jp

URL <http://www.bpw-japan.jp/>